

平成28年度～令和元年度における教育研究等に係る自己点検・評価書

令和2年7月
国立大学法人 東京芸術大学

項目別の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果に関する目標

中期目標	長きに亘り培ってきた伝統的な芸術教育手法や、社会的要請を踏まえた芸術教育内容を継承しつつ、グローバル人材育成を推進するための世界水準の教育を実施し、確固とした基礎技術や高い芸術性を備えることはもとより、芸術における国際展開やイノベーションの実践、現代社会と有機的な関係を持つことができる創造的人材を育成する。
------	--

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における主な取組状況
【1】1-1 学士課程においては、引き続き専門教育及び教養教育の質の確保・充実を図るとともに、外国語教育の充実を段階的に推進することとし、さらに、教育内容の国際通用性を高めるため、平成29年度を目途に科目ナンバリングやシラバスの英語化等の取組を完了させるなど、グローバル人材育成に向けた取組を総合的に推進する。	III	<ul style="list-style-type: none"> ■学士課程においては、実習や学部・学科を超えた交流科目の推進等により、専門教育及び教養教育の質の確保・充実を図った。また、外国語教育の点では、言語・音声トレーニングセンターにおけるTOEFL対策科目の新規開講、ドイツ語・フランス語・イタリア語・英語の特別集中講座の実施、グローバルサポートセンターにおける集中講義「Introduce Yourself as an Artist～自分と作品を世界に語ろう～」の実施、e-learningシステム(英語自習システム)の無償提供、グローバルサポートセンターにおける英文ライティング・サポートの実施等、グローバル人材育成に向けた取組を総合的に推進した。 ■シラバスについては日英で記載しているほか、検索・内容画面について自動翻訳システム(Google Translate)を導入しており、多言語により参照することができる。また、科目ナンバリングを利用した講義コードを振り直すことにより、シラバス検索の利便性が向上した。加えて、シラバスの内容について充実を図り、特に実技科目の説明を詳細に記載したり、写真を用いたりすること等により、本学特有の授業がより分かりやすく伝わるようにしている。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学部・学科を超えた交流科目の更なる推進。 ■シラバス内容の更なる充実。 	<p>美術学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ■共通工房において全科・全学年を対象とした素材表現演習を開講し、工芸科・デザイン科・絵画科・建築科等の幅広い学生が金属造形技法や木材造形技法を体験し、学科を超えた交流となった。授業内で制作された作品は学内で展示発表された。 ■安全操業のために、安全講習内及び通常作業指導時において整理・整頓・清潔・清掃の指導をより強化しており、機械使用法及び注意事項等の英語表記プリントの作成や、危険箇所の英語表記等により、外国人学生に対しても安全対策を強化した。(共通工房・木材造形工房)
		<p>音楽学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ■授業レベルを確保するため、一部授業において事前能力試験を実施することとし、履修便覧・シラバスなどに反映した。 ■教養科目においては美術学部との交流科目の見直し及び充実を図った。 ■全科目について「科目ナンバリング」を完了し、それを活用した履修指導を実施している。 	
【2】1-2 音楽学部においては、平成28年度より導入する飛び入学をはじめとする早期教育制度を適切に運用しつつ、発展的に展開するとともに、毎年度、自己点検・評価を実施し、結果の公表や制度の検証・改善を行う。	IV	<ul style="list-style-type: none"> ■音楽学部において、2017年度入試(2016年度実施)より「飛び入学」入試を実施し、同年度および2020年度入試(2019年度実施)に、それぞれヴァイオリン専攻で1名の合格者を決定し、専用のカリキュラムであるスペシャルソリストプログラム(SSP: Special Soloist Program)による指導を行っている。 ■2014年度より全国各地で実施している「早期教育プロジェクト」は、実施エリアを拡大し、これまでの経験を検証しつつ、きめの細かいレッスンを展開している。 ■2017年度には早期教育リサーチ・センターを創設し、音楽における早期教育に関する研究及びこれに基づく教育を行い将来の優れた音楽家育成に貢献するとともに、毎年度、自己点検・評価を実施し、継続的に検証・改善している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■継続的な自己点検・評価の実施。 	

<p>【3】1-3 大学院課程では、「海外一線級アーティストユニット」の参加による国際共同プログラムの実施等、世界最高水準の人材育成プログラムを行うとともに、平成29年度までに、国際交流協定締結校との国際共同カリキュラム（ジョイントディグリー）を整備・実施し、その教育的効果の検証を行う。また高度な博士人材育成のための芸術実践領域（実技系）博士プログラムを進展させ、平成29年度より、修士課程・博士課程の5年間を通じた高度人材育成プログラムを構築することにより、芸術分野において先導的役割を担う卓越した芸術家・研究者育成を推進する。</p>	<p>■2016年4月、芸術と社会とを繋ぐ人材の育成を強化する為、美術研究科にグローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科にオペラ専攻を設置するとともに、本学4つ目の大学院組織として「国際芸術創造研究科」を創設し、「アートマネジメント」「キュレーション」「リサーチ」の3領域で、芸術と社会の新しい関係を提案できる卓越した人材を養成するアートプロデュース専攻を設置し、2018年4月には同専攻の博士後期課程を設置した。</p> <p>■国際共同教育プログラムの充実として、全学的に、海外大学との共同授業および共同成果発表や、海外一線級アーティストの誘致を推進した。</p> <p>美術分野では、ロンドン芸術大学等と「グローバルアート国際共同カリキュラム」を構築し、海外大学及び本学学生が双方の国を訪れ、リサーチやディスカッション等を通して協働で作品制作等を実施し、それらはフランス世界遺産シャンボール城や、3年に1度開催される国際芸術祭「瀬戸内国際芸術祭」等において発表され、多くの来場者や評論家等から高い評価を受ける等、国際水準での教育研究成果を挙げた。</p> <p>音楽分野では、毎年度50～70名の一線級アーティストを短～長期間において招聘し、学生への実技レッスンをはじめ、学生・教員等との合同演奏会や特別講義を実施する等、世界トップアーティスト育成プログラムを展開し、国際コンクールでの受賞者を数多く輩出するなど、高い教育成果が現れている。</p> <p>映像分野では、「日中韓学生アニメーション共同制作 co-work」や「日米ゲームクリエイション共同プログラム」など、海外大学との国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを構築・実施しているほか、フランス国立映画学校(FEMIS)やアメリカの南カリフォルニア大学(USC)の教員を卓越教授として雇用すること等により多数の新しい講義を開講し、世界最高水準の人材育成プログラムを構築している。</p> <p>国際芸術創造分野(アートプロデュース分野)では、毎年度、顕著な業績等を有する有識者を特別講師として招聘し、講演・ワークショップ・研究会等を開催しているほか、「ソウル/東京/台北・アートリサーチ・ワークショップ」として、韓国総合芸術学校、国立台北芸術大学との三大学合同の共同研究会を毎年度開催するなど、教育プログラムとしての海外大学との国際共同プロジェクトを多数実施している。</p> <p>■大学全体として、機能強化の一環およびスーパーグローバル大学創成支援事業および大学の世界展開力強化事業等の活用により、海外大学との国際共同プロジェクトの拡充を進めている。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■新研究科・新専攻および各種国際共同教育プログラム等の教育的効果の継続的な検証と改善。</p> <p>■国際共同教育プログラムの、国際共同学位課程(ダブルディグリーまたはジョイントディグリー)への移行に係る検証。</p>	<p>美術研究科</p> <p>音楽研究科</p> <p>映像研究科</p> <p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■2016年度、修士課程にグローバルアートプラクティス専攻を新たに設置し、カリキュラムの一環として毎年度、パリ国立高等美術学校およびロンドン芸術大学との国際共同授業「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施している。</p> <p>■2015年度～2019年度の5年間、「Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～」として「大学の世界展開力強化事業(中東)」の採択を受け、トルコのミマル・シナン美術大学およびアナドル大学、イスラエルのベツァルエル美術アカデミーとの国際共同プロジェクトを実施した。</p> <p>■美術研究科の全専攻から横断的に履修者を募り、シカゴ美術館付属美術大学との国際共同プログラムを毎年度実施している。</p> <p>■オーストリアのウィーン応用美術大学、デンマークのデザインスクール・コリング、オスロ国立芸術アカデミー、イギリスのAAスクール等との国際共同授業を毎年度実施している。</p> <p>■2016年度、修士課程にオペラ専攻を新たに設置し、高度実践型カリキュラムとして、ウィーン音楽大学の元教授であり世界的なオペラ演出家のミハエル・テンメ演出によるオペラ定期演奏会「ロシ・ファン・トゥッパ」を開催するなど、国際舞台で活躍する教員による世界最高水準の教育プログラムを実施した。</p> <p>■パリ国立高等音楽院やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、海外大学・機関等から毎年度50～70名の一線級アーティストを短～長期間において招聘し、学生への実技レッスンをはじめ、学生・教員等との合同演奏会や特別講義を実施する等、世界トップアーティスト育成プログラムを展開した。</p> <p>■2016年度に「日中韓学生アニメーション共同制作 co-work」として「大学の世界展開力強化事業(キャンパスアジア)」の採択を受け、2020年度までの5年間の取組として、2010年より継続している本学と韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーション共同制作を基盤とした共同カリキュラムを構築・実施している。</p> <p>■2018年度に「日米ゲームクリエイション共同プログラム-メディア革新時代の新しいアーティスト育成-」として「大学の世界展開力強化事業(アメリカ)」の採択を受け、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)と連携し、ゲーム教育に係る国際共同プログラムを充実している。</p> <p>■フランス国立映画学校(FEMIS)、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)の教員を卓越教授として雇用し、「映画学」「国際映像メディア論」「国際映画芸術表現研究」等を開講するとともに、壇国大学(韓国)、テヘラン芸術大学(イラン)、ラサール芸術大学(シンガポール)から招聘した教員による「撮影」「録音」「編集」領域の講義を実施した。</p> <p>■2016年度、4つ目の大学院組織として国際芸術創造研究科を創設し、同年にアートプロデュース専攻の修士課程を、2018年度には博士後期課程を設置し、アートマネジメント、キュレーション、リサーチの3領域を交差・横断しつつ芸術と社会の関係にアプローチする、5年間を通じた高度人材育成プログラムを構築している。</p> <p>■毎年度、顕著な業績等を有する有識者を特別講師として招聘し、講演・ワークショップ・研究会等を開催している。</p> <p>■「ソウル/東京/台北・アートリサーチ・ワークショップ」として、韓国総合芸術学校、国立台北芸術大学との三大学合同の共同研究会を毎年度開催している。</p> <p>■2016年度より全学で「大学の世界展開力強化事業(ASEAN)」の採択を受けて実施している「日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション」に参画し、ベトナムのホーチミン市美術大学およびベトナム国家音楽院、ラオスの国立美術学校等との共同プロジェクトを実施している。</p>
--	--	---	--

<p>【4】1-4 地域社会や産業界、海外関係機関等との連携協力により、実践的な教育研究の場を構築し、社会実践プログラムとして発展させ、学部・大学院全ての学生を対象とした課題解決型・社会実践型の芸術教育を行う。</p>	IV	<p>■芸術を活かした町づくり、製品開発、市民や子供への教育、高齢者や障がい者の活躍促進など、地域社会や産業界、海外関係機関等との連携により多数の社会実践プログラムを展開し、学部生・大学院生に対する課題解決型・社会実践型の芸術教育を推進しており、併せて、展覧会や演奏会等により教育研究成果の発信を実施している。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■カリキュラムにおける社会実践プログラムの更なる充実。 ■教育的効果の継続的な検証と改善。</p>	美術学部・美術研究科	<p>■茨城県取手市および市民との協働によるアートプロジェクト、群馬県みなかみ町とNP0との連携による芸術を活かした町づくり、株式会社NKBゆがわら工房における公共施設に設置する作品の受注から施工までを体験するインターンシップ、株式会社ミマキエンジニアリングの協力による昇華転写システムプリントを使用したテキスタイルの製作、染色作家である齋藤孝子氏の染色工房における伝統技術の学習、文化財(絵画・彫刻・工芸・建築等)の保存修復に係る事業・研究の実践等、地域社会や産業界との連携協力による社会実践プログラムを多数実施している。</p> <p>■東京都教育委員会との連携による障害者美術への一般の人々の理解を促進・啓発する活動、青森県との連携による「ふるさとを愛する心を育む芸術体験事業」など、美術教育に関する普及活動についても、学生参加による教育プログラムの一環として実施している。</p> <p>■デザイン科では、企業や自治体との産学連携を積極的に行う為に「デザインガレージ」を始動させ、社会実装型のデザイン教育を行っており、「台東区/皮革産業活性化プロジェクト」「JAKUETS/幼児玩具の可能性の具体化プロジェクト」「伊那市デザインプロジェクト」「Coop-deli/日用品のブランディングプロジェクト」「AGC(旭硝子) ガラスのある新しい暮らしのデザインプロジェクト」等、多数の連携プログラムを展開している。</p>
		<p>■「足立区における多層的な文化芸術環境の創造に関する調査研究」として、足立区の幼稚園・保育園・小学生・中学生の教育現場を対象とした「音楽教育支援活動」、同区の福祉と子育ての支援を目的とした「福祉と子育て支援事業」、区民が芸術に親しむ環境整備を目的とした「芸術によるまちづくり事業」について、学生参加による社会実践プログラムとして実施している。</p> <p>■京成電鉄株式会社からの受託による京成上野駅「発車メロディー」の制作、三菱電機株式会社との共同による音質の見える化に関する研究、ヤマハ株式会社との共同による楽器・音響製品の感性評価に関する研究等、産業界との連携による取組について、教育プログラムとして機能させている。</p> <p>■官公庁・自治体・企業等から多数の依頼を受け、学生による社会実践プログラムとして演奏会やワークショップ等を開催している。</p>	音楽学部・音楽研究科	<p>■三菱電機株式会社との「ライティング機器(路面やウィンカー等のアニメーション研究)」および「次世代ビル内交通システムコンセプトにおける人と施設をつなぐ映像・音のデザイン」に係る共同研究に学生が参加し、新しい芸術表現やその活用方法を探求するなど、民間企業や地方自治体との連携による社会実践プログラムを推進している。</p> <p>■スマートイルミネーション横浜2017連携プログラムにおける神奈川県立歴史博物館外壁面へのプロジェクトマッピングや、取手市との連携事業による取手市西口自転車駐車場「サイクルステーションとりで(CTS)」の外壁面へのアニメーション投影等では、大学院映像研究科の学生が制作した作品を用いた。</p> <p>■台東区との連携による、台東区立田原幼稚園における幼児へのアニメーション教育の実施等、地方自治体等との共同による子供や市民への教育についても、学生参加による社会実践プログラムとして機能させている。</p>
		<p>■東京都足立区の「音まち計画」、茨城県取手市の「取手アートプロジェクトオフィス」、東京都台東区の「谷中のおかって」等との連携により、多彩なアートプロジェクトの企画・運営に社会実践プログラムとして学生が参加している。</p> <p>■アートフェア東京2018特別展「World Art Tokyo」において学生2名がキュレーターを担当、本学と駐日韓国大使館韓国文化院との共催により同ギャラリーMIで開催された「東京藝術大学韓日学生交流展 Challenge Art in Japan 環状の岸辺」展において企画運営を学生が担当する等、学外における展覧会等で学生が実践をしている。</p> <p>■毎年度、本学大学美術館陳列館を活用し、学生がアーティストの選定から出品交渉、展示コンセプト構成等全てを行う学生企画展を開催している。</p>	映像研究科	<p>■東京都足立区の「音まち計画」、茨城県取手市の「取手アートプロジェクトオフィス」、東京都台東区の「谷中のおかって」等との連携により、多彩なアートプロジェクトの企画・運営に社会実践プログラムとして学生が参加している。</p> <p>■アートフェア東京2018特別展「World Art Tokyo」において学生2名がキュレーターを担当、本学と駐日韓国大使館韓国文化院との共催により同ギャラリーMIで開催された「東京藝術大学韓日学生交流展 Challenge Art in Japan 環状の岸辺」展において企画運営を学生が担当する等、学外における展覧会等で学生が実践をしている。</p> <p>■毎年度、本学大学美術館陳列館を活用し、学生がアーティストの選定から出品交渉、展示コンセプト構成等全てを行う学生企画展を開催している。</p>
		<p>■東京都足立区の「音まち計画」、茨城県取手市の「取手アートプロジェクトオフィス」、東京都台東区の「谷中のおかって」等との連携により、多彩なアートプロジェクトの企画・運営に社会実践プログラムとして学生が参加している。</p> <p>■アートフェア東京2018特別展「World Art Tokyo」において学生2名がキュレーターを担当、本学と駐日韓国大使館韓国文化院との共催により同ギャラリーMIで開催された「東京藝術大学韓日学生交流展 Challenge Art in Japan 環状の岸辺」展において企画運営を学生が担当する等、学外における展覧会等で学生が実践をしている。</p> <p>■毎年度、本学大学美術館陳列館を活用し、学生がアーティストの選定から出品交渉、展示コンセプト構成等全てを行う学生企画展を開催している。</p>	国際芸術創造研究科	<p>■東京都足立区の「音まち計画」、茨城県取手市の「取手アートプロジェクトオフィス」、東京都台東区の「谷中のおかって」等との連携により、多彩なアートプロジェクトの企画・運営に社会実践プログラムとして学生が参加している。</p> <p>■アートフェア東京2018特別展「World Art Tokyo」において学生2名がキュレーターを担当、本学と駐日韓国大使館韓国文化院との共催により同ギャラリーMIで開催された「東京藝術大学韓日学生交流展 Challenge Art in Japan 環状の岸辺」展において企画運営を学生が担当する等、学外における展覧会等で学生が実践をしている。</p> <p>■毎年度、本学大学美術館陳列館を活用し、学生がアーティストの選定から出品交渉、展示コンセプト構成等全てを行う学生企画展を開催している。</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(2) 教育の実施体制等に関する目標

中期
目標

1. 学生の創造性を最大限に引き出す環境を整備するため、専門教育環境を堅持しつつ、その充実を図る。また、グローバル人材育成等社会的要請を踏まえた教育体制・環境を整備するため、教育研究組織の見直しをはじめとする学内教育資源の再配分・最適化を行う。

2. 世界的な人材育成拠点として相応しい教育力の向上を図るため、芸術分野の特性に応じたFD等を実践する。

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況	
【5】1-1 本学の伝統であり、芸術教育に欠かせない、少人数教育・個人指導を着実に実施するための教員配置等指導体制を整備するとともに、ロンドン芸術大学等海外一流大学等から卓越した芸術家・指導者を継続的に招聘・配置することにより、指導体制の強化・充実を図る。	III	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続き、芸術教育に欠かせない少人数教育・個人指導を着実に実施している。 ■大学全体として、海外一流大学等から卓越した芸術家・指導者を継続的に招聘・配置することにより、指導体制の強化・充実を図っている。 ■芸術と社会とを繋ぐ教育の推進として、産業界等からの講師招聘を充実している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■個人指導・少人数教育を更に充実する為の、実技指導、工房・スタジオ等での実習を支える専門スタッフの拡充。 ■海外一流大学や産業界等からの多様な芸術家・指導者および実務家等の継続的な招聘・配置。 	美術学部・美術研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■少人数制による基礎から応用までの授業や作品制作等に係る個別指導を充実するとともに、工房の稼働環境を整備し、学生それぞれの技量に合わせて個別に指導を行う事で、安全管理を徹底している。 ■毎年度、中国の広州美術学院、イギリスのAAスクールおよびロンドン芸術大学、ドイツのプレーメン芸術大学、ポーランドのプロツワフ芸術大学、フランスのパリ国立高等美術学校等から卓越した芸術家・指導者・研究者を30名規模で招聘し、少人数教育・個人指導および幅広い芸術表現の学習を可能にしている。
		音楽学部・音楽研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■毎年度、パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、リスト音楽院、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団など世界的な音楽大学及びオーケストラから一流の演奏家を招聘し、個人指導、グルーブレッスン、特別講座、演奏会による協演等を実施して指導体制の強化・充実を図っている。 ■ハーバード大学、パリ第4大学、スタンフォード大学、ニューヨーク大学、ボルドー芸術大学等から音楽理論・作曲・マルチメディア分野の研究者を招聘し、講演会や研究指導等を実施している。 	
		映像研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■フランス国立映画学校(FEMIS)、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)の教員を卓越教授として雇用し、「映画学」「国際映像メディア論」「国際映画芸術表現研究」等を開講するとともに、檀国大学(韓国)、テヘラン芸術大学(イラン)、ラサール芸術大学(シンガポール)から招聘した教員による「撮影」「録音」「編集」領域の講義を実施している。 ■株式会社スクウェアエニックス等、産業界からの講師招聘を充実している。 	
		国際芸術創造研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■一学年あたりの学生定員が修士課程10名・博士後期課程5名であるのに対し、教授・准教授・講師6名および助教3名で計9名の専任教員を配置し、少人数教育・個人指導を徹底している。 ■パリ政治学院副学長のブルーノ・ラトゥール、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ教授のマシュー・フラーおよびマイク・フェザーストーン、元パリ国立高等学校学長でキュレーターのニコラ・ブリオー、台北芸術大学・学長の陳愷璜、ハーバード大学の依田富子教授およびアレクサンダー・ザルテン准教授等、卓越した業績を有する教員・実務家等を毎年度多数招聘し、特別講義や研究会を開催している。 	

<p>【6】1-2 大学における教育システムの一環として、国内及び海外における展覧会・演奏会等、学外において多様な制作・発表等活動の場を確保し、教育研究活動の成果を積極的に発信する。</p>	<p>IV</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国際共同カリキュラムや社会実践プログラムの一環として、地域を含む国内および海外において多数の展覧会・演奏会・上映会等を開催し、教育研究活動の成果を積極的に発信した。 ■外部主催の国際的なコンテストやコンクール等に学生が積極的に参加し、数多くの賞を獲得している。 ■全学として海外実践研修型授業への学内助成事業「アーツ・スタディ・アブロード・プログラム(ASAP)」を毎年度実施し、参加学生を「海外派遣奨学金」により支援することで、海外における学生の教育研究成果の発表を促進している。 ■2018年度、本学と株式会社小学館との共同事業として、本学の学生・教職員・卒業生の作品を中心に展示・販売を行うギャラリー・ショップである「藝大アートプラザ」を本学上野キャンパス内に開設し、教育研究成果の発信の場と機能を拡充・強化した。 ■2018年度、本学内に東京藝術大学国際芸術リソースセンター(IRCA: International Resource Center of the Arts)を竣工し、施設内に新設した「ラーニングコモンズ」は、用途に応じて自由に組み替えられるオリジナルの家具を配置し、空間・壁面を利用したコンサート、展示、ワークショップ等のイベントにも対応できる、本学ならではのスペースである。 ■2019年度、茨城県取手の取手駅・駅ビル内に、新たなアート施設「たいけん美じゅつ場」をオープンし、施設内には「オープンアーカイブ」と呼ばれる展示空間を設け、本学の教育研究成果を恒常的に発信している。 ■本学のアーカイブセンターWebサイトにおいて、美術資料や演奏会映像等の教育研究成果を発信・配信している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学外における成果発表の場を拡充する為の、地方自治体や民間企業、各種芸術文化施設等とのネットワークの拡大。 ■大学美術館や奏楽堂等、本学の教育研究成果の発信に係る中核的な施設の計画的な運営・修繕。 	<p>美術学部・美術研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ロンドン芸術大学等との「グローバルアート国際共同カリキュラム」の一環として、共同制作した作品等をフランス世界遺産シャンボール城や、3年に1度開催される国際芸術祭「瀬戸内国際芸術祭」等において展示し、国際的に発信した。 ■海外大学との交流展覧会を、韓国のソウル大学校、台湾赤粒画廊、タイのチェンマイ大学、ミャンマーのパガン漆芸技術大学、オーストラリアのメルボルン大学、フィンランドのユヴァスキュラ美術館等で開催した。 ■社会実践型の教育プログラムの一環として、地域・産学連携等による教育研究成果を、茨城県大子町の県北芸術祭、福島県磐梯山麓日寺資料館、青森県酸ヶ湯温泉の旅館、上野動物園、浅草文化観光センター、天王洲セントラルタワー、世界のカバン博物館等、各プロジェクトに係る場において展覧会等を開催することで多様な観客等に発信することにより、地域の活性化や社会への還元等に繋がった。 ■学生が「東京建築コレクション」「The Contingent Space of Work (マサチューセッツ工科大学Keller Gallery)」「全国学生卒業設計コンクール」など国内外の展覧会等に参加している。
		<p>音楽学部・音楽研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■本学の奏楽堂等において演奏会や公開試験などを数多く実施しているほか、地域連携事業や依頼演奏等において、全国各地で教育研究成果を発表している。 ■2018年度には、本学と英国王立音楽院の学生による合同オーケストラ交流演奏会を英国と日本において開催した(英国において英国王立音楽院及びオックスフォードの2公演、日本において郡山市及び本学の2公演の合計4公演)。また同年、本学においてシベリウス音楽院との交流演奏会、延世大学校との交流演奏会を開催した。2019年度には学生オーケストラが、南仏ラ・クロワ・ヴァルメールでの吹奏楽フェスティバルとパリ日本文化会館での演奏を実施した。 ■2017年度より、世界三大音楽レーベルの一つである(株)ワーナーミュージック・ジャパンと連携し、本学が主体となり「藝大レーベル」を立ち上げ、学生の在学中における演奏音源をデジタル配信するという、国内の音楽大学では初となる取組を開始した。
		<p>映像研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■各専攻の修了制作の発表および一年次の成果発表を、本学の馬車道校舎、渋谷・ユーススペース、BankART Studio NYK、横浜美術館等で実施するとともに、YouTubeやVimeo等のWebメディアでも作品配信している。 ■地域におけるワークショップ等の場において、併せて学生作品の上映等を実施している。 ■地域連携事業の一環として、神奈川県立歴史博物館や取手市西口自転車駐車場で学生作品のプロジェクトショウマッピングや投影を実施した。 ■NHKによる8K放送が開始されるのにあわせ、最新技術を使った映像表現を観覧者に体験してもらうことを目的に、NHKおよび本学COI拠点と連携し、本学の陳列館において展覧会「Art of 8K 超高精細映像が広げる表現の可能性」を企画・開催した。 ■ジャパン・ハウス ロサンゼルスにて、東京藝大大学院映像研究科、南カリフォルニア大学(USC)映画芸術学部アニメーション&デジタルアート学科、カリフォルニア芸術大学(CalArts)映像・ビデオ学部実験アニメーション専攻の三機関による「アニメーションのタペ〜日米アニメーション上映会〜」と題した学生作品上映会を開催した。
		<p>国際芸術創造研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■毎年度、本学大学美術館陳列館を活用し、学生がアーティストの選定から出品交渉、展示コンセプト構成等全てを行う学生企画展を開催している。 ■東京都足立区の「音まち計画」、茨城県取手市の「取手アートプロジェクトオフィス」、東京都台東区の「谷中のおかって」等との連携により、地域社会等における多彩なアートプロジェクトの企画・運営に社会実践プログラムとして学生が参加し、教育研究成果を発信している。 ■ベトナムのホーチミン市美術大学およびベトナム国家音楽院、ラオスの国立美術学校等との国際共同プロジェクトの成果を展覧会や演奏会等により発信した。 ■アートフェア東京2018特別展「World Art Tokyo」、ジャポニスム2018「深みへー日本の美意識を求めて」展等、外部の展覧会等に学生が企画・運営等として参加し、教育研究成果を発信した。

<p>【7】1-3 グローバル人材育成を推進するため、平成28年度に独立研究科をはじめとする新たな大学院組織を整備するとともに、教育組織・指導体制見直し等の学内資源の再配分・最適化を継続的にを行い、社会的要請に即応した教育推進体制を構築する。</p>	<p>III</p>	<p>■2016年4月、芸術と社会とを繋ぐ人材の育成を強化する為、美術研究科にグローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科にオペラ専攻を設置するとともに、本学4つ目の大学院組織として「国際芸術創造研究科」を創設し、「アートマネジメント」「キュレーション」「リサーチ」の3領域で、芸術と社会の新しい関係を提案できる卓越した人材を養成するアートプロデュース専攻を設置し、2018年4月には同専攻の博士後期課程を設置した。 ■全学的に、海外一線級アーティスト等の誘致を推進し、教育組織・指導体制の充実を図った。 ■2017年度に「早期教育リサーチセンター」、2019年度に「アートイノベーション推進機構」を創設するなど、学内資源の再配分・最適化による教育研究組織の再編を推進している。</p> <p>[今後の課題] ■新研究科・新専攻および各種国際共同教育プログラム等の教育的効果の継続的な検証と改善。</p>	<p>美術学部・ 美術研究科</p>	<p>■2016年度、修士課程にグローバルアートプラクティス専攻を新たに設置し、カリキュラムの一環として毎年度、パリ国立高等美術学校およびロンドン芸術大学との国際共同授業「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施している。</p>
<p>音楽学部・ 音楽研究科</p>		<p>■2016年度、修士課程にオペラ専攻を新たに設置し、高度実践型カリキュラムとして、ウィーン音楽大学の元教授であり世界的なオペラ演出家のミヒャエル・テンメ演出によるオペラ定期演奏会「コシ・ファン・トゥッテ」を開催するなど、国際舞台で活躍する教員による世界最高水準の教育プログラムを実施した。</p>		
<p>映像研究科</p>		<p>■2018年度に「日米ゲームクリエイション共同プログラム-メディア革新時代の新しいアーティスト育成-」として「大学の世界展開力強化事業(アメリカ)」の採択を受け、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)と連携し、ゲーム教育に係る国際共同プログラムを充実することにより、2019年度から「ゲームコース」を開設した。</p>		
<p>国際芸術創造研究科</p>		<p>■2016年度、4つ目の大学院組織として国際芸術創造研究科を創設し、同年にアートプロデュース専攻の修士課程を、2018年度には博士後期課程を設置し、アートマネジメント、キュレーション、リサーチの3領域を交差・横断しつつ芸術と社会の関係にアプローチする、5年間を通じた高度人材育成プログラムを構築している。</p>		
<p>【8】2-1 学生による授業評価アンケート等を定期的実施し、評価結果を教育内容の改善・充実に繋げるとともに、公開型講習会や公開レッスン等をFD研修として、相互評価・第三者評価に活用することにより、教育力向上に繋げる。</p>		<p>■毎年度2回の授業評価アンケートを行い、その回答結果を各教員にフィードバックし、各教員には学生からの指摘を確認してもらった上で授業評価への対応アンケートに回答してもらい、授業改善に役立てている。また、教育担当理事を中心とする教育推進室でアンケートの結果報告を行い、課題と対策について検討している。</p> <p>[今後の課題] ■授業評価アンケート等の継続的な実施。 ■FDの充実。</p>	<p>美術学部・ 美術研究科</p>	<p>■各学科・専攻において公開型講習会等を行い、教育および評価の透明性を図るとともに、教員同士の相互評価および授業内容等について共有・意見交換をしている。また、外部評論家、美術家等をゲストに招き、教育現場に外部からの評価・意見を積極的に取り入れている。 ■国際共同プログラムや産学・地域連携プロジェクト等においても、成果発信の為の一般展示や、連携相手も含めた形での講習会等を行い、幅広い批評を受けられる機会としている。</p>
<p>音楽学部・ 音楽研究科</p>		<p>■公開試験演奏会や公開レッスン、研究発表会等を実施し、相互評価・第三者評価を行う事により教育力向上を図っている。 ■誘致した海外一線級アーティスト等と、教育内容や指導方法について意見交換を行っている。</p>		
<p>映像研究科</p>		<p>■毎年度、海外から著名な教員を招聘し、国際合同講習会を開催している。 ■他専攻の教員、学外専門家等も参加可能な形で講習会を開催している。</p>		
<p>国際芸術創造研究科</p>		<p>■FD対策部会を設置し、FD活動の実施時期・具体的取組・フィードバック方法・教員の資質向上方策について検討を行い、領域間を超えた学生が自発的な勉強会などを積極的に行うよう指導していくことの徹底等に繋げるとともに、教員の相互評価結果の報告等を実施した。</p>		

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

中期目標	グローバル化時代における多様なニーズに対応するため、学習支援・生活支援・経済支援体制を拡充する。										
中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況								
【9】1-1 平成30年度までに附属図書館改修に伴う機能強化により、学生の自主的・自律的な学習支援を充実させるとともに、専門性や国籍を超えた多様な学生間交流を実現する。また、女子学生や障がいを抱えた学生に配慮したダイバシティなキャンパス環境整備や支援体制強化を図る。	III	<ul style="list-style-type: none"> ■2018年度、附属図書館改修に伴う機能強化として、本学内に東京藝術大学国際芸術リソースセンター（IRCA: International Resource Center of the Arts）を竣工した。施設内に新設した「ラーニングコモンズ」は、用途に応じて自由に組み替えられるオリジナルの家具を配置し、自主的・自律的な学習支援に資するスペースであると同時に、空間・壁面を利用したコンサート、展示、ワークショップ等のイベントにも対応できる。 ■2016年度、特別修学支援室の専用スペースを学生会館に整備し、障がいのある学生への支援について、各部署の実情に即した支援までの流れを定め、学習支援・生活支援体制を強化した。 ■バリアフリー対策工事の実施、段差解消機設置、多目的トイレの新設など、ダイバシティなキャンパス環境の整備を進めている。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■2021年度末までに学生会館の改修工事を行い、専門性や国籍を超えた多様な学生間交流を促進する為の国際交流拠点を整備する。 									
【10】1-2 海外渡航における経済的負担の軽減を目的としたプロジェクト基金を設立し、学生の留学・海外活動を積極的に支援する。また、傑出した才能を有する学生を支援するため、平成28年度から、新たに成績優秀学生への学生納付金免除制度を整備するとともに、平成29年度から、在学中、特に優れた業績を上げた学生に対する特別奨学金制度を創設する。	III	<ul style="list-style-type: none"> ■全学として海外実践研修型授業への学内助成事業「アーツ・スタディ・アブロード・プログラム(ASAP)」を毎年度実施し、参加学生を「海外派遣奨学金」により支援することで、海外における学生の教育研究成果の発表を促進している。 ■海外留学を希望する学生に対し40万円を一括給付する「東京藝術大学海外留学支援奨学金」制度を毎年度実施している。 ■大学の世界展開力強化事業等の活用により、学生の留学・海外活動の支援を伴う形で、海外大学との国際共同プロジェクトの拡充を進めている。 ■2017年度に美術学部及びび音楽学部の在学生のうち成績優秀者を対象とした特別奨学金制度を創設し、給付を開始した。 ■交換留学や短期の学生派遣プログラムにおいて、日本学生支援機構(JASSO)の奨学金制度に計画を申請し、継続的に採択を受けている。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学生の海外留学・海外活動に係る経済的支援を更に充実する為の、寄附金等の募集強化。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="1144 794 1256 995" style="width: 20%;">美術学部・美術研究科</td> <td data-bbox="1256 794 2139 995"> <ul style="list-style-type: none"> ■油画専攻独自のプログラムとして、公益財団法人石橋財団の助成による石橋財団国際交流油画奨学生を実施している。海外留学や海外での創作研究活動・リサーチ等を希望する学生に対し、渡航費と現地での活動資金を支援するもので、短期型の派遣（主に学部学生）、長期型の派遣（主に大学院学生）および海外アーティストインレジデンスへの参加を目的とした枠の三枠で募集を行い、毎年10名ほどの学生が本奨学プログラムを活用して海外渡航・海外留学に臨んでいる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1144 995 1256 1195" style="width: 20%;">音楽学部・音楽研究科</td> <td data-bbox="1256 995 2139 1195"> <ul style="list-style-type: none"> ■成績優秀学生への学生納付金免除制度として、飛び入学試験による入学者の入学料及び授業料免除を実施した。 ■2018年度、「ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー」人材育成に係る協定（特別選抜制度）を締結し、同アカデミーのヴァイオリン部門に「東京藝術大学枠」が設けられ、試験が毎年行われ、合格者は2年間同アカデミーに留学できる制度を構築した。同年7月には、本学において「派遣者オーディション」の第1回目を実施し、合格した1名の秋からの同アカデミーへの派遣が決定した。また、派遣者には寄附金を原資とする奨学金によりサポートが行われる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1144 1195 1256 1315" style="width: 20%;">映像研究科</td> <td data-bbox="1256 1195 2139 1315"> <ul style="list-style-type: none"> ■韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーションの国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムや、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)との連携によるゲーム教育に係る国際共同プログラムについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1144 1315 1256 1423" style="width: 20%;">国際芸術創造研究科</td> <td data-bbox="1256 1315 2139 1423"> <ul style="list-style-type: none"> ■韓国総合芸術学校、国立台北藝術大学との三大学合同の共同研究会や、ASEANの芸術系大学との共同プロジェクトについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。 </td> </tr> </table>	美術学部・美術研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■油画専攻独自のプログラムとして、公益財団法人石橋財団の助成による石橋財団国際交流油画奨学生を実施している。海外留学や海外での創作研究活動・リサーチ等を希望する学生に対し、渡航費と現地での活動資金を支援するもので、短期型の派遣（主に学部学生）、長期型の派遣（主に大学院学生）および海外アーティストインレジデンスへの参加を目的とした枠の三枠で募集を行い、毎年10名ほどの学生が本奨学プログラムを活用して海外渡航・海外留学に臨んでいる。 	音楽学部・音楽研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■成績優秀学生への学生納付金免除制度として、飛び入学試験による入学者の入学料及び授業料免除を実施した。 ■2018年度、「ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー」人材育成に係る協定（特別選抜制度）を締結し、同アカデミーのヴァイオリン部門に「東京藝術大学枠」が設けられ、試験が毎年行われ、合格者は2年間同アカデミーに留学できる制度を構築した。同年7月には、本学において「派遣者オーディション」の第1回目を実施し、合格した1名の秋からの同アカデミーへの派遣が決定した。また、派遣者には寄附金を原資とする奨学金によりサポートが行われる。 	映像研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーションの国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムや、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)との連携によるゲーム教育に係る国際共同プログラムについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。 	国際芸術創造研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■韓国総合芸術学校、国立台北藝術大学との三大学合同の共同研究会や、ASEANの芸術系大学との共同プロジェクトについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。
美術学部・美術研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■油画専攻独自のプログラムとして、公益財団法人石橋財団の助成による石橋財団国際交流油画奨学生を実施している。海外留学や海外での創作研究活動・リサーチ等を希望する学生に対し、渡航費と現地での活動資金を支援するもので、短期型の派遣（主に学部学生）、長期型の派遣（主に大学院学生）および海外アーティストインレジデンスへの参加を目的とした枠の三枠で募集を行い、毎年10名ほどの学生が本奨学プログラムを活用して海外渡航・海外留学に臨んでいる。 										
音楽学部・音楽研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■成績優秀学生への学生納付金免除制度として、飛び入学試験による入学者の入学料及び授業料免除を実施した。 ■2018年度、「ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー」人材育成に係る協定（特別選抜制度）を締結し、同アカデミーのヴァイオリン部門に「東京藝術大学枠」が設けられ、試験が毎年行われ、合格者は2年間同アカデミーに留学できる制度を構築した。同年7月には、本学において「派遣者オーディション」の第1回目を実施し、合格した1名の秋からの同アカデミーへの派遣が決定した。また、派遣者には寄附金を原資とする奨学金によりサポートが行われる。 										
映像研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーションの国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムや、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)との連携によるゲーム教育に係る国際共同プログラムについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。 										
国際芸術創造研究科	<ul style="list-style-type: none"> ■韓国総合芸術学校、国立台北藝術大学との三大学合同の共同研究会や、ASEANの芸術系大学との共同プロジェクトについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。 										

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(4) 入学者選抜に関する目標

中期目標	アドミッションポリシーに基づき、志願者一人一人の適性、能力を仔細に検証し、多角的・総合的に判断する入学者選抜方法を徹底するとともに、稀有な才能を有する者の積極的な受入れ等、グローバルスタンダードを踏まえた新たな入学者選抜方法を導入する。		
中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
【11】1-1 本学の伝統である、受験者一人一人の基礎能力・判断能力・応用能力を判定する多角的・総合的な審査を継続する。またグローバルスタンダードを踏まえた明確なアドミッションポリシーを平成30年度までに作成するとともに、ブランディング戦略の一環として、入試に係る広報・情報発信を積極的に行う。	III	<p>■2016年度、3つのポリシーの明確化についてのプロジェクトチームを組織し、アドミッションポリシーを策定した。受験者一人一人の基礎能力・判断能力・応用能力を判定する多角的・総合的な審査を実施している。</p> <p>■各学部・研究科において、入試説明会・オープンキャンパス、入試相談会、研究室訪問、受験生向けのデッサン講習会等を実施している。</p> <p>■入試情報の発信に係る特設WEBサイトを新設し、毎年度の新入生アンケート等の結果に基づき同サイトのコンテンツを調整しているほか、Twitterを用いて本学入試にかかるニュースを配信するなど、情報発信・入試広報の強化・充実に努めている。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■多角的・総合的な入試を継続する為の安定的な体制の構築。</p> <p>■入試広報・情報発信の更なる強化。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>■美術学部入試説明会について、本学および福岡県で開催した。入試説明会では、希望者が自作品を持ち込み講師が講評を行う、教員による学部入試合格作品の評価・解説を行う、構内に実際の入試合格作品を展示する等、様々な情報発信を実施している。また、「デッサンコンクール(講習会)」では、受験生を対象にした実践的な講習を行い、作品の評価付けと講評会を行っている。加えて、入試説明会の資料や動画をWebで公開している。</p> <p>■美術を専門科目としている全国の高等学校へ、各学科等のパンフレットを郵送している。</p> <p>■多角的・総合的な審査の実現のため、2019年度入試(2018年度実施)から、美術学部絵画科油画専攻の入試において、面接審査を導入した。</p> <p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>■毎年度、7月下旬の土日にオープンキャンパスを開催し、入試広報に力を入れている。実施に当たってはWeb事前申込み制を導入し利用者の利便性を向上させ、来場者アンケートの結果を踏まえ、年々内容を充実させている。</p> <p>映像研究科</p> <p>■毎年度、入試説明会を京都会場・上野会場・横浜会場で開催しているほか、メディア映像専攻では受験希望者の個別対応を行う研究室訪問を実施している。入試説明会にあたっては、先立ってツイッター広告を配信する、学生作品の上映を併せて行う等の施策により、広報・情報発信を強化している。</p> <p>■横浜市および横浜市内大学と連携して行われる「ヨコハマ大学まつり」において、入試説明会等の情報提供を実施しているほか、「横浜市大学・都市パートナーシップ協議会(横浜市政局大学調整課)」のWEBサイトにおいて、入試説明会の情報提供を行った。</p> <p>■2019年度からは、新たに入試相談会を開催している。</p> <p>国際芸術創造研究科</p> <p>■外国人留学生入試に係る広報の強化として、ロンドンで開催された日本留学フェアでの資料配布や個別相談を実施したほか、登録者およそ8万人のメーリングリスト Art & Educationに広告を掲載した。</p> <p>■毎年度、入試説明会を開催している。</p>
【12】1-2 音楽学部において、稀有な才能を有する者を対象として、入学後の特別カリキュラムを連動させた独自の飛び入学制度を平成28年度から実施する。また、毎年国内5か所以上の市町村において、高校生以下を対象とする個人レッスンを中心とした早期教育プログラムを継続的に実施する。	IV	<p>■音楽学部において、2017年度入試(2016年度実施)より「飛び入学」入試を実施し、同年度および2020年度入試(2019年度実施)に、それぞれヴァイオリン専攻で1名の合格者を決定し、専用のカリキュラムであるスペシャルソリストプログラム(SSP: Special Soloist Program)による指導を行っている。</p> <p>■2014年度より全国各地で実施している「早期教育プロジェクト」は、実施エリアを拡大しながら毎年度継続的に10都市以上で実施しており、2018年度は奈良、京都、東京、和歌山、札幌、刈谷、仙台、東広島、岡山、北九州、福井、熊本の12都市で計17回を開催した。また、特筆すべきこととして、2018年度より新たに全日本空輸株式会社(ANA)とタイアップし、航空運賃を負担いただいており、持続可能なプロジェクトとなるよう自助努力を図っている。</p> <p>■2017年度には早期教育リサーチ・センターを創設し、音楽における早期教育に関する研究及びこれに基づく教育を行い将来の優れた音楽家育成に貢献するとともに、毎年度、自己点検・評価を実施し、継続的に検証・改善している。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■プロジェクトの持続と、継続的な自己点検・評価の実施。</p>	

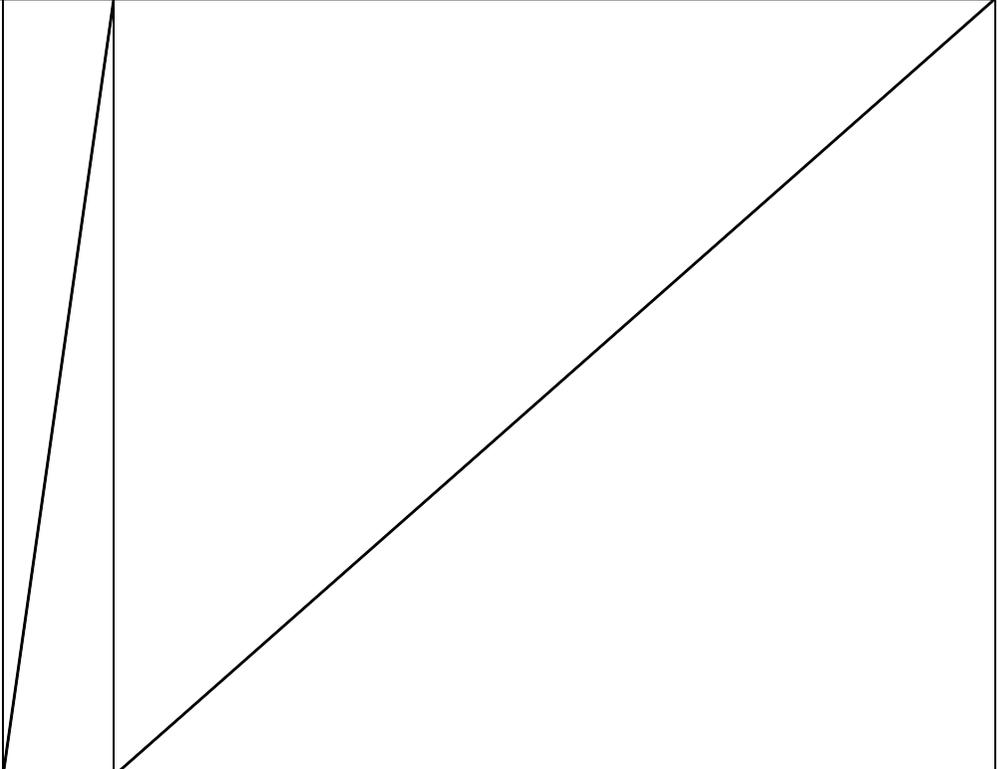
<p>【13】1-3 インターネットを活用したWEB出願システムを平成29年度までに導入する。また、音楽学部の早期教育受講者に係る基本情報をはじめ、卒業生までを含め一元的に管理する総合的なデータベースを構築する。</p>	<p>III</p>	<p>■2016年度に入試に係るWeb出願システムを導入した。その後も、新入生から「Web出願にあたって困ったこと、わかりにくかったこと」等について継続的にアンケートをとり、システムの利便性について調査・確認を行い、改善を図っている。</p> <p>■早期教育等受講者・在学生・卒業生等の情報を一元的に管理する総合的なデータベースについて、各システムの相互連携等、本稼働に向けた環境の整備について検討を進めている。</p> <p>[今後の課題] ■総合的なデータベースの構築および運用の開始。</p>	
<p>【14】1-4 国内のみならず広く海外も対象として、多様な個性・特色・能力を有する学生を確保するため、平成28年度以降、飛び入学制度の導入や国際バカロレア資格活用等をはじめとする新たな入試制度を段階的に導入する。</p>	<p>III</p>	<p>■学部入試において、飛び入学制度や、国際バカロレア資格の活用を含む帰国子女入試および外国語教育課程出身者特別入試の導入・拡大を推進している。</p> <p>■一般入試の入学者と、飛び入学・外国学校出身者特別選抜による入学者との比較検証について、在学時の成績データに基づく分析を進めているほか、飛び入学や外国学校出身者特別選抜による入学者は少数であることから、質的な分析・検証についても検討を進めている。</p> <p>[今後の課題] ■入試制度に係る検討および、制度別入学者の比較検証の継続。</p>	<p>美術学部</p> <p>■先端芸術表現科において、国際バカロレア資格の活用を含む帰国子女入試を毎年度実施している。</p> <p>■入試運営委員会にて帰国子女入試の拡大について検討し、2020年度入試(2019年度実施)より油画科・工芸科・デザイン科・建築科においても導入することを決定し、実施した。</p> <p>音楽学部</p> <p>■2017年度入試(2016年度実施)より「飛び入学」入試を実施し、同年度および2020年度入試(2019年度実施)に、それぞれヴァイオリン専攻で1名の合格者を決定し、専用のカリキュラムであるスペシャルソリストプログラム(SSP: Special Soloist Program)による指導を行っている。また、2020年度入試より、「飛び入学」の対象専攻に管楽器を加え募集を行った。</p> <p>■2017年度入試(2016年度実施)より、国際バカロレア資格を含む外国語教育課程出身者特別入試を導入した。</p>

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 2 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標
--

中期目標 伝統文化の継承を確実に行うとともに、新しい芸術表現の創造やイノベーション創出、研究成果の社会実装化を推進し、我が国の芸術文化力の向上と戦略的な国際展開、産業競争力強化等に貢献する。

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
【15】1-1 文部科学省COI拠点事業「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション において、芸術と科学技術の融合を基盤として、伝統文化の伝承・世界発信や教育・コミュニケーションに関する研究等を総合的に推進し、平成33年度までには文化教育コンテンツや文化外交アイテムの開発・社会実装を実現する。	IV	<ul style="list-style-type: none"> ■2016年度および2018年度に実施された本事業の中間評価において、いずれも「S評価」を獲得した。 ■2016年5月、G7伊勢志摩サミットのサイドイベント「テロと文化財—テロリストによる文化財破壊・不正取引へのカウンターメッセージ」にて、本COI拠点で制作したクローン文化財の「パーミヤン東大仏天井壁画・天翔ける太陽神」と「法隆寺金堂6号壁」を展示し、本学教員が各国首脳に直接説明を行い、その意義を発信した。 ■2017年度に上演した「舞・飛天遊」は、芸術家（音楽と舞踏）とAI技術の融合がコンサートの形で実証され、世界から大きな注目を集めた。また、芸術とAI技術の融合という観点では、音楽の生演奏と背景のアニメーションの同期上映という新たな表現技術を開発し、世界各地での演奏会開催に繋がっている。 ■法隆寺釈迦三尊像のクローン文化財としての再現にあたって、中核的なプロデュースを行い、高岡市の伝統工芸である鋳物技術を活用するなど、我が国独自のコンテンツや技術をもとにした文化外交アイテムや地方創生ビジネスの開発と実装において、成果をあげている。 ■障がい者支援等の社会包摂事業として、「音と光の動物園」「障がいとアーツ」「七感で楽しむシアター」「だれでもピアニスト、だれでもアーティスト」等の取組を毎年度開催している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自立的で持続的なイノベーション・プラットフォームの構築。 	

<p>【16】1-2 大学における研究推進システムの一環として、伝統文化や新たな芸術表現創造に関する研究成果を、大学美術館や奏楽堂等学内施設はもとより、学外施設等も有効に活用した展覧会や演奏会等を通して広く社会に発信する。</p>	<p>■2016年度、大学美術館において、全国美術館会議および東北地方3県の県立美術館との連携により「いま、被災地から 岩手・宮城・福島 の美術と震災復興」展を開催し、東北地方の伝統美術と現代美術を展示公開するとともに、美術品の震災復興の記録を紹介し、今後も続く復興活動への支援を行った。また、同年に開催した「観音の里の祈りと暮らし展Ⅱ」では、長浜市と協力して、北近江地方に伝わる貴重な仏像を紹介し、3万人の入館者を得た。</p> <p>■2018年度、大学美術館が所蔵する上村松園の代表作《序の舞》の大規模修復の完了を記念し、「東西美人画の名作《序の舞》への系譜」を開催した。《序の舞》の修復課程を学術的に紹介すると共に日本伝統美術の中における「美人画」というジャンルを關東画壇と關西画壇を比較検討しながら考察し、その成果から新たな表現方法の可能性を見出すことを試みた。</p> <p>■COI拠点と大学美術館との共同で「アートの保存・修復—未来への遺産」を開催し、仏像、敦煌莫高窟壁画などの伝統美術も含めて、アートの保存方法あるいは復元再現方法、デジタル化の便宜性と将来的な危険性などを検証した。</p>	美術学部・美術研究科	<p>■渋谷区立松濤美術館で開催された「月一夜を彩る清けき光」に日本画研究室収蔵の国宝「源氏物語絵巻」現状模写を貸し出し展示し、同研究室の行う現状模写の正確さと緻密な表現力を広く一般に披露し、日本画の周知に貢献した。</p> <p>■銀座で開催された「銀茶会」と連携し、銀座伊東屋を舞台に茶道をテーマに展覧会を行い、工芸科教員・学生が制作した茶室・茶道具を展示し、また、藝大茶道部の協力の下、茶会を13回行った。</p> <p>■大学美術館において「刻まれた時間 もの語る存在」展を開催し、90年代以降の本学の木彫を焦点に俯瞰することで、日本の現代の彫刻について検証するとともに本学の彫刻科の活動を発信した。</p> <p>■受託研究として実施してきた彫刻文化財の修復や外部助成金等による模刻制作研究（慧日寺薬師如来坐像復元制作など）や学生の模造研究の成果発表を「研究報告発表展」として開催した。</p> <p>■2019年4月9日～14日の期間にイタリアミラノフォーリサローネ「RESONANCE MATERIALS Project 2019」に出品し、「体験性」をテーマに科の枠を超え教員・学生の制作した作品を展示した。</p>
	<p>■2019年度、京都国立近代美術館、朝日新聞社との共催による展覧会「円山応挙から京都近代画壇へ」では、近世京都画壇の祖とも言える円山応挙の表現と技法を詳しく検証して、その伝統表現が近代の京都系日本画の芸術表現創造にどのように継承されたかを多角的に考察した。日本美術や日本画の専門家からの評価も高く、予想の5万人をはるかに越える76,918人の入館者を得た。</p> <p>■2018年度、本学内に東京藝術大学国際芸術リソースセンター（IRCA: International Resource Center of the Arts）を竣工し、併せて、本学と株式会社小小学館との共同事業として、本学の学生・教職員・卒業生の作品を中心に展示・販売を行うギャラリー・ショップである「藝大アートプラザ」を本学上野キャンパス内に開設し、教育研究成果の発信の場と機能を拡充・強化した。</p>	音楽学部・音楽研究科	<p>■本学・奏楽堂を中心に、海外大学との合同オーケストラ、新たな演出による邦楽舞台、音楽と医学との融合に係るコンサート・シンポジウム等を数多く開催し、研究成果を発信した。</p> <p>■台東区や荒川区、取手市をはじめ自治体との連携も積極的に行い、また、新規の受託事業を東北や九州などの自治体から受け入れ、各地で演奏会等を開催し研究成果を発信した。</p>
	<p>■2019年度、茨城県取手の取手駅・駅ビル内に、新たなアート施設「たいけん美じゅつ場」をオープンし、施設内には「オープンアーカイブ」と呼ばれる展示空間を設け、本学の教育研究成果を恒常的に発信している。</p> <p>■本学のアーカイブセンターWebサイトにおいて、美術資料や演奏会映像等の教育研究成果を発信・配信している。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■Webによる成果発信の充実。</p> <p>■学外における成果発信の場を拡充する為の、地方自治体や民間企業、各種芸術文化施設等とのネットワークの拡大。</p> <p>■大学美術館や奏楽堂等、本学の教育研究成果の発信に係る中核的な施設の計画的な運営・修繕。</p>	映像研究科	<p>■クラウドファンディング事業として制作した世界初のヴィジュアルディ「四季」アニメーションコンサートを、北九州、アメリカ、フランス、ブルガリア等で上演した。</p> <p>■NHKによる8K放送が開始されるのに合わせ、本学修士生他のクリエイターによる最新技術を使った映像表現を観覧者に体験してもらうことを目的に、NHK、本学COI拠点と連携し、上野キャンパス陳列館において、展覧会「Art of 8K 超高精細映像が広げる表現の可能性」を企画・開催した。</p> <p>■南カリフォルニア大学およびスクエアエニックスとの連携によりゲーム分野の教育研究を新たに開始し、その成果発信として「ゲーム学科(仮)展」および「ゲーム学科(仮)0年次展」を開催した。</p>
	国際芸術創造研究科	<p>■2017年度、第7回モスクワ国際現代美術ビエンナーレ「Clouds*Forests」や、フランスのボンビドゥ・センター・メッス別館で開催された「ジャパノラマ：1970年以降のアートの新しいヴィジョン」展において、本研究科の教員がキュレーターを務めた。</p> <p>■2018年度、日仏両政府の協力の下フランスで実施された大型日本文化紹介事業「ジャポニスム2018」の一環である「深みへ - 日本の美意識を求めて -」展において、本研究科の教員がキュレーターを務めた。</p> <p>■本研究科の教員が、「音楽を固定された”名詞”ではなく、変化する”動詞”として捉えること」をテーマにした書籍、『アフターミュージッキング』を刊行した。</p>	

<p>【17】1-3 芸術研究院として再編された分野融合・横断型の研究体制を活かし、芸術諸分野の研究者同士が分野の枠を超えて連携・共同することにより、複合的領域研究を推進する。</p>	<p>■敦煌研究院から2名の研究員を招聘し、敦煌・莫高窟の土壁構造及び壁画の再現実験を、壁画、保存科学、保存修復、東洋美術史の各研究室が共同で実施した。</p> <p>■東京国立博物館の制作工程模型班において、工芸科染織研究室、デザイン科、芸術学科工芸史研究室の教員・学生が協力してプロジェクトに取り組んでいる。</p> <p>■芸術学科主催のシンポジウム「ドイツ近代美術におけるディレクティブティズム」において、音楽学部の教員、美術教育の教員とともに研究発表を行い、複合的領域研究を推進した。</p> <p>■デザイン科とGEIDAI FACTORY LAB、ガラス造形研究室、石材工房、金工工房鋳造室、木材造形工房とが連携し、共通工房の特色を活かした異種素材の結合によるデザイン及び造形についての研究を実施した。</p> <p>■演奏芸術センターが中心となって音楽学部・研究科の枠を超え、また、舞台美術を美術学部・研究科が担当し、絢爛豪華な演奏会「和楽の美 大江戸歌舞伎絵巻」を上演した。</p> <p>■国際芸術創造研究科、美術学部・研究科、音楽学部・研究科とのコラボレートによる、クラシック音楽を可視化するコンサート「MUSIC × TYPOGRAPHY BACH CONCERT」を開催した。</p> <p>III</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■学内における、学部・研究科の枠を超えた連携・共同の更なる推進。</p>	
--	---	--

<p>【18】1-4 国内及び海外関係機関との研究開発・イノベーション創出等に係るネットワーク基盤を構築するとともに、若手研究者を中心とした人材の相互交流・国際循環等を推進し、他機関・他分野の研究者と連携・共同することにより、学際的領域に関する共同研究等を推進する。</p>	<p>■2016年度より、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム(2018年度からは国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)として「マルチメディア・コンテンツに関する領域融合・実践型国際研究ネットワーク形成」を実施し、ハーバード大学、スタンフォード大学、ニューヨーク大学、ソルボンヌ大学に音楽分野および映像分野の若手研究者を派遣したほか、国際シンポジウム等を多数開催した。</p> <p>■2016年度、中国・敦煌研究院と、デジタル技術とアナログ技術を融合するための共同研究を推進し、各種文化財の保存と伝承を目指すことを目的とする「文化財共同研究に関する覚書」を締結した。</p> <p>■2016年度より、芸術と科学が互いに重なり合い共有できる力を探求するための、多様なアプローチの展開を目的とした学長直属の「Arts Meet Scienceプロジェクト」を展開している。2019年度には第3回目のイベントとして、「美と科学；より豊かな社会を目指して」をテーマに、沖縄科学技術大学院大学学長ピーター・グルース氏らをゲストに迎え、また、本学と東京大学医学部の現役生も登壇し、講演・ディスカッション・演奏を実施した。</p> <p>■2016年度、順天堂大学と包括連携協定を締結し、音楽セラピー等の共同研究の推進や、解剖・病理分野と美術解剖学における連携、順天堂医院におけるホスピタルアート・ヒーリングアートの展開など、医学・医療と芸術の融合および相乗効果の最大化を目指した取組を進めている。</p> <p>■全学事業として、「アーツ・スタディ・アプロード・プログラム(ASAP)」および「インターナショナルスペシャリスト・インビテーションプログラム(ISIP)」を実施し、海外機関とのネットワーク構築および人材の交流・共同プロジェクトの実施等を促進した。</p> <p>■「大学の世界展開力強化事業」として4件の取組を推進し、トルコ・イスラエル、中国・韓国、ASEAN諸国(特にCLMV+タイ)、アメリカの芸術系大学・機関とのネットワークを強化し、主に大学院生や若手教員の相互交流や共同プロジェクトを重点的に推進した。</p> <p>■2016年度に本学の主導により創設した全国芸術系大学コンソーシアム、国公立5芸術大学による定期会合、都内美術系6大学による連絡協議会、首都圏音楽系9大学が結束して開催している「音楽大学オーケストラフェスティバル」等、芸術系大学とのネットワーク基盤を構築し、人材の相互交流や共同事業の開催を促進している。</p> <p>■2018年度、JAXAより油井亀美也宇宙飛行士を招聘し、シンポジウム「未来創発講座(第2回) 一宇宙と芸術における未来への創造の可能性」を開催した。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■国内及び海外関係機関との研究開発・イノベーション創出等に係るネットワーク基盤の構築および、若手研究者を中心とした人材の相互交流・国際循環の更なる促進。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p>	<p>■台湾文化部と本学との共催による日本芸術文化交流事業(光点計画)を毎年度実施している。</p> <p>■2016年度、本学、シュトゥットガルト美術アカデミー、ソウル大学とで「三國Gspaceless」と題した交流展を開催した。本学からは5名の教員と大学院生16名が参加し、東アジアの伝統的な絵画様式をテーマとして「掛軸」とその可能性について発信した。</p> <p>■本学の日本画研究室及び文化財保存修復日本画研究室、愛知県立芸大学、東京文化財研究所とが連携し、膠についての文化研究、普及を目指した作家・教育者・技術者による活動を実施している。</p> <p>■2016年度より本学と東京工業大学の連携活動として、共同研究会「TechArt越境」を実施しており、その一環として、大学院において「デザインプロジェクト授業」を開講している。</p> <p>■2017年度、国際シンポジウム「日本画の所在一東アジア絵画としての一」を開催し、登壇者には北澤憲昭(美術評論家)、斎藤典彦(本学教授)、野地耕一郎(泉屋博古館分館長)、天野一夫(美術評論家)、加藤弘子(東京都現代美術館学芸員)らの研究者を中心に、岡村桂三郎(多摩美大教授)、間島秀徳(信州大教授)、荒井経(本学准教授)、三瀬夏之介(東北芸術工科大教授)、胡明哲(中央美術学院教授)らの作家、ゲストとして佐藤道信(本学教授)、塩谷純(東京文化財研究所近現代視覚芸術研究室長)、チェルシー・フォックスエル(シカゴ大教授)、板倉聖哲(東大東洋文化研究所教授)らが参加した。研究者・評論家・作家・学生を中心に2日間延べ600人の聴衆を集め、朝日新聞・毎日新聞・新美術新聞などから取材申し込みがあるなど、関心も高く、日本画の現代の状況のみならず、またこれからの在り方を探っていくためにも有意義な企画となった。</p> <p>■株式会社ムラヤマとの共同研究により音響彫刻の研究を展開し、感動創造のための器具と空間の研究に取り組み、成果をミラノサローネで発表した。</p> <p>■一般財団法人日本国際協力センター(JICE)と共同企業体を設立し、独立行政法人国際協力機構(JICA)より、3ヵ年計画の「大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト」を受託。大エジプト博物館保存修復センターの保存修復・保存科学の専門家と日本人専門家とが合同で対象遺物の調査、移送、保存修復を行うことで、人材育成および技術移転を図る事業を推進している。</p>
<p>IV</p>	<p>音楽学部・音楽研究科</p>	<p>■英国王立音楽院、リスト音楽院、バリ国立高等音楽院、ウィーン音楽演劇大学、韓国芸術総合学校等の国際交流協定校との人材交流を活発に行い、合同演奏会やワークショップ等を通じて、より高いレベルの芸術活動に向けた連携を推進している。また、延世大学音楽学部、トリニティ音楽院、タイ・マヒドン大学等、新たなネットワークの拡大も促進している。</p> <p>■2017年度には、藝大フィルハーモニア管弦楽団が、東京大学の研究機関(東京大学TA0プロジェクト)と協力関係を結びチリ大統領府青年オーケストラ基金(FOJI)、サンチアゴ市立劇場、チリ大学からの招待を受け、南米・チリにおいて演奏会を実施した。</p>	
	<p>映像研究科</p>	<p>■新たにイランのテヘラン芸術大学と国際交流協定を締結したほか、フランスのゴブラン、レコール・ドリマジュや中国伝媒大学とも連携深化に向けた協議を進めている。</p> <p>■韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーションの国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを毎年度実施することにより、各大学の教員により、国際共同による映像教育や作品制作に係る共同研究を推進している。</p> <p>■ゲーム分野の研究について、南カリフォルニア大学、スクエアエニクス等との連携による推進している。</p> <p>■2019年度、ゲーム分野に係る研究の一環として、アステラス製薬、横浜国立大学とともに、ゲーミフィケーションを用いた新たなデジタルヘルスケアソリューション創出へ向けて、Health Mock Lab. を発足した。</p> <p>■2018年度、NHKによる8K放送が開始されるのに合わせ、本学修了生他のクリエイターによる最新技術を使った映像表現を視聴者に体験してもらうことを目的に、NHK、本学COI拠点と連携し、上野キャンパス陳列館において、展覧会「Art of 8K 超高精細映像が広げる表現の可能性」を企画・開催した。</p>	
	<p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジと芸術国際交流協定の締結に向けた協議を進めている。近年の具体的な交流として、二つのオリンピック都市をテーマとしたワークショップの開催、ゴールドスミス・カレッジで開催されたシンポジウム「ロンドン・リオ・東京オリンピック」への本学から教員・学生の参加、公開シンポジウム「ポストメディア時代の芸術文化と理論」の開催等が挙げられる。</p> <p>■ドイツのドキュメンタリー映画監督ルッツ・ダンベック氏による、特別シンポジウム「ドイツと日本の戦後の『再教育(reeducation)』：メディア、民主主義、アメリカニズムをめぐる」を開催した。</p> <p>■コペンハーゲン大学との共同研究プロジェクト「コラボレーション・コミュニティ・コンテンツポラリアート(CCCA)ワークショップ」を開催した。</p> <p>■毎年度、「ソウル/東京/台北・アトリサーチ・ワークショップ」として、韓国総合芸術学校、国立台北芸術大学との三大学合同の共同研究会を開催している。</p>	

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
2 研究に関する目標
(2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標
 産業界や国際交流協定締結校等との研究連携を強化し、新領域での研究を推進・活性化するとともに、研究組織体制強化や新たな支援体制を構築し、グローバル化や産業競争力強化等の社会的要請を踏まえた多様な研究を支援する。

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
<p>【19】1-1 産業界や国際交流協定締結校、海外一線級アーティストユニット等との共同研究や共同プロジェクトを通して、積極的な教員・研究者の交流を行うとともに、アジアにおける芸術研究拠点（ハブ）として、韓国・中国・台湾をはじめ、ASEAN諸国等との連携基盤を強化するとともに、欧米からの研究者等の受入体制を整備する。</p>	<p>IV</p>	<p>■2016年度より、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム(2018年度からは国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)として「マルチメディア・コンテンツに関する領域融合・実践型国際研究ネットワーク形成」を実施し、ハーバード大学、スタンフォード大学、ニューヨーク大学、ソルボンヌ大学に音楽分野および映像分野の若手研究者を派遣したほか、国際シンポジウム等を多数開催した。</p> <p>■2016年度、中国・敦煌研究院と、デジタル技術とアナログ技術を融合するための共同研究を推進し、各種文化財の保存と伝承を目指すことを目的とする「文化財共同研究に関する覚書」を締結した。</p> <p>■全学事業として、「アーツ・スタディ・アプロード・プログラム(ASAP)」および「インターナショナルスペシャリスト・インビテーションプログラム(ISIP)」を実施し、海外機関とのネットワーク構築および人材の交流・共同プロジェクトの実施等を促進した。</p> <p>■「大学の世界展開力強化事業」として4件の取組を推進し、トルコ・イスラエル、中国・韓国、ASEAN諸国、アメリカの芸術系大学・機関とのネットワークを強化し、主に大学院生や若手教員の相互交流や共同プロジェクトを重点的に推進した。特にASEAN諸国との交流においては、これまであまり連携がなかったカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの芸術系大学・機関との交流を促進した。</p> <p>■大学全体として、海外一流大学等から卓越した芸術家・指導者を継続的に招聘・配置し、また、芸術と社会とを繋ぐ取組として、産業界・地方自治体等と連携した事業・研究を積極的に実施し、共同プロジェクト等を通じて教員・研究者交流を推進した。</p> <p>[今後の課題] ■産業界や海外大学等との、継続的な人材交流・国際循環の実施およびその為の持続可能なネットワーク・連携関係の構築。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>■毎年度、本学と台湾文化部の共催により「台湾・日本芸術文化交流事業台湾文化光点計画」を実施し、芸術表現の可能性を探り、次世代の芸術家を育成し、文化交流の促進及び台湾文化に対する認識向上を目的とした取組を推進している。</p> <p>■広州美術学院との連携により、日本画と中国画の歴史、絵画技法等の共通点や異なりを研究し、両国の発展と文化交流を行う「北緯23°/北緯35°」を開催した。</p> <p>■韓国大邱大学の教員を招聘し、共同プロジェクトとして「いものかたち」日韓交流展を駐日韓国大使館韓国文化院で開催した。作品展示、講演会、合同講評会を実施し、韓国のソウル大学、伝統文化大校、大邱大学の6名の教員が作品を出品した。</p> <p>■大学の世界展開力強化事業等を通じて、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイ等、ASEAN諸国の芸術系大学・機関との教員・研究者交流を促進した。</p> <p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>■パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、リスト音楽院、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団、ウィーン音楽演劇大学、韓国芸術総合学校等の国際交流協定校と、合同演奏会やワークショップ等を通じて、積極的な教員・研究者の交流を実施している。</p> <p>■延世大学音楽学部、タイ・マヒドン大学等、アジアにおける連携強化として、新たなネットワークの拡大を促進している。</p> <p>■大学の世界展開力強化事業等を通じて、ミャンマー、ベトナム、タイ等、ASEAN諸国の芸術系大学・機関との教員・研究者交流を促進した。</p> <p>映像研究科</p> <p>■韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーションの国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを毎年度実施することにより、各大学の教員により、国際共同による映像教育や作品制作に係る共同研究を推進している。</p> <p>■ゲーム分野の研究について、南カリフォルニア大学および、スクウェア・エニックス等の産業界との連携による推進している。</p> <p>■三菱電機株式会社との共同研究として「ライティング機器（路面やウィンカー等のアニメーション研究）」「次世代ビル内交通システムコンセプトにおける人と施設をつなぐ映像・音のデザイン」を実施した。</p> <p>■大学の世界展開力強化事業等を通じて、ミャンマー、タイ等、ASEAN諸国の芸術系大学・機関との教員・研究者交流を促進した。</p> <p>■文化庁ASEAN文化交流・協力事業（映画・アニメーション分野）として実施された「デジタルシネマ撮影照明・編集ワークショップinマレーシア」「アニメーションブートキャンプASEAN」において、研究科の教員が専門家として参画した。</p> <p>国際芸術創造研究科</p> <p>■毎年度、「ソウル/東京/台北・アートリサーチ・ワークショップ」として、韓国総合芸術学校、国立台北芸術大学との三大学合同の共同研究会を開催している。</p> <p>■大学の世界展開力強化事業等を通じて、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイ等、ASEAN諸国の芸術系大学・機関との教員・研究者交流を促進した。</p> <p>■中国からキュレーターとアーティストを招聘し、公開シンポジウム「新たなキュレーションを求めて：情報のエコロジーとネットワーク」を開催した。</p>

<p>【20】1-2 ダイバーシティな研究環境を実現するため、コーディネーター・カウンセラー・キャリアアドバイザー・リサーチアシスタント・マネージャーを新たに配置するとともに、研究支援に係る事務体制の強化等、多様な研究活動を支援する体制を整備する。また芸術における革新的な研究活動等を組織的に推進するため、間接経費を活用したインセンティブ付与等の支援システムを構築する。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学長直属のアートイノベーション推進機構(具体的には、同機構を構成する社会連携センター)にURAを配置し、公的な補助金や研究費等への応募者に対する相談体制等の支援環境を整備した。 ■研究活動の活性化を図ることを目的として、大型の科研費等の外部資金の獲得を目指した助成的研究に対して助成を行うこととし、間接経費を活用した学内公募「研究推進プロジェクト」を展開している。例として、2016年度には、「和紙の耐久性に及ぼすヘミセルロースの役割の解明-雁皮紙の超長寿命化をめざして-」「20世紀前半のヴァイオリン演奏様式史研究-野澤コレクションの調査を中心に」「映像アーカイブスの基盤形成に関する総合的研究」の3件を採択した。 ■受託研究・事業等の積極的な受け入れを行うためのインセンティブとして、間接経費の部局および実施研究室に対する配分比率を拡充した。 ■大型の科研費に応募して不採択になった者に対し、評価結果に応じて研究費を支援する制度を導入・実施した。 ■2016年度、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に本学の申請プランが採択されたことを機に、新たに「ダイバーシティ推進室」を設置し、コーディネーター等専門スタッフを雇用し、女性研究者に対する支援・相談体制を整備した。併せて、女性研究者の研究力向上を図るための研究支援プログラムとして、女性研究者が自らの研究分野やキャリア形成を題材として立案・運営する研究企画について学内公募を行い、特に優れたプロジェクト提案に対して助成を行う「ダイバーシティパイロットプログラム」を実施し、これまでに計20件の助成を行っている。 ■妊娠・出産・子育て・介護等の理由で研究時間の確保が難しい研究者に対し、教育研究支援員を配置する制度や、ベビーシッター派遣事業を導入し、女性研究者の働きやすい環境整備に努め、支援充実を図った。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■女性研究者や若手研究者等に対する支援の持続・拡大。 	
<p>【21】1-3 新たに設置された芸術研究院において、既存の学部・研究科の枠を超えた分野融合・横断型の研究体制による有機的連携を図るとともに、新領域研究やイノベーション創出を構築するため、国内外関係機関等から多様な人材を配置するなど、研究実施体制の整備を行う。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■油画技法材料研究室において、横浜国立大学やホルベイン工業等の他大学・産業界から、高精細デジタル撮影技術、蜜蝋(エンカオステイク)による絵画技法、絵具製造等に係る専門家・研究開発者を招聘した。 ■壁画研究室・保存修復油画研究室・保存科学研究室とが共同し、また、イタリア・ラヴェンナ国立博物館前館長、敦煌研究院から教員を招聘し、「ユーラシア大陸における壁画技法の比較調査～日本・中国・イタリア」をテーマにシンポジウムを開催し、国と分野を超えた取組を推進した。 ■演奏芸術センターが中心となって音楽学部・研究科の枠を超え、また、舞台美術を美術学部・研究科が担当し、絢爛豪華な演奏会「和楽の美 大江戸歌舞伎絵巻」を上演した。 ■本学音楽学部・研究科、映像研究科、COI拠点、株式会社ヤマハの連携により、アニメーション化したヴィヴァルディによる名曲「四季」の音楽世界の映像と生演奏とをAI(人工知能)技術により同期させて上映・演奏するライブ・アニメーション・コンサートを、世界各国で上演した。実施の度に速度等が微妙に変化する生演奏に合わせ、本学COI拠点とヤマハが共同開発したAI技術によりアニメーションが同期する上映/上演は、世界初の取組である。 ■国際芸術創造研究科、美術学部・研究科、音楽学部・研究科とのコラボレートによる、クラシック音楽を可視化するコンサート「MUSIC × TYPOGRAPHY BACH CONCERT」を開催した。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学内および学外の多様な連携による分野融合・横断型の研究体制の充実と、新領域研究やイノベーション創出の促進。 	

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

中期目標	<p>1. 展覧会、演奏会、発表会等を通して、教育研究成果を広く社会へ提供・還元することにより、我が国の芸術文化の振興・発展や地域創生等に貢献する。</p> <p>2. 社会人のキャリアアップに必要な高度かつ専門的な知識・技術・技能を身につけるためのプログラムをはじめ、生涯学習・リカレント教育等多様な受講者ニーズ、ユニバーサルアクセスに対応した総合的な教育支援プログラムを構築・提供する。</p>
------	---

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
【22】1-1 地域の自治体や国内外の関連機関・企業等との連携基盤を一層強化し、日本各地における早期教育プロジェクトやアートプロジェクト等の諸活動を自治体等との共同により継続的に実施する。	IV	<p>■本学における受託／共同研究、受託／共同事業については、受入金額および実施件数の双方で、第2期時点より大きく増加している。</p> <p>■2018年度に香川県および長野県、2019年度には長崎県と、持続的な連携事業の実施に係る包括協定を締結した。</p> <p>■芸術を活かした町づくり、製品開発、市民や子供への教育、高齢者や障がい者の活躍促進など、地域社会や産業界、海外関係機関等との連携により多数の社会実践プログラムを展開し、学部生・大学院生に対する課題解決型・社会実践型の芸術教育を推進しており、併せて、展覧会や演奏会等により教育研究成果の発信を実施している。</p> <p>■具体的には、以下等を毎年度実施している。</p> <p>①アート・コミュニケーション基盤整備事業（アート・コミュニケータの養成）（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館）</p> <p>②足立区における多層的な文化芸術環境の創造に関する調査研究（足立区）</p> <p>③東京藝術大学連携事業の実施に係る業務（香川県）</p> <p>④藝大デザインプロジェクト（台東区）</p> <p>⑤東京芸術大学との文化交流事業<美術指導><音楽指導>（取手市）</p> <p>⑥3D計測による仏像データ保存活用事業（奈良県教育委員会）</p> <p>⑦幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究（荒川区）</p> <p>⑧都立特別支援学校アートキャラバン展実施に係る企画等業務（東京都）</p> <p>⑨文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業（横浜市文化観光局）</p> <p>⑩磐梯山慧日寺資料館「磐梯とくいつ藝術祭」支援事業（磐梯町）</p> <p>⑪東京藝術大学ワークショップ 親子で学ぶ陶芸教室（北杜市）</p> <p>⑫八幡市「一坪茶室」制作事業（八幡市）</p> <p>⑬藝大アーツイン丸の内（三菱地所株式会社）</p> <p>⑭幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究（荒川区）</p> <p>⑮台東区の表彰制度における盾・トロフィーの制作委託（台東区）</p> <p>⑯書道博物館 中村不折作品調査修復業務委託（台東区）</p> <p>⑰朝倉響子氏制作作品調査事業委託（台東区）</p> <p>⑱南さつま市平和記念館所蔵遺品の保存修復（南さつま市）</p> <p>【今後の課題】</p> <p>■産学・地域連携事業と社会実践型教育プログラムおよび博士後期課程学生等の若手研究者支援との連動。</p> <p>■シーズ集の充実および、その活用等による新規事業の開拓。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>■上述の中期計画【3】に係る取組のほか、以下等を実施した。</p> <p>■長野県東御市北御牧牧地区を対象に、地域資源を活かした地域の活性化や地域づくりの人材育成を図る目的として大規模な芸術祭(天空の芸術祭)を開催した。また、茨城県の県北アートフェスティバルにおいて、北茨城大子町の常陸大子駅周辺を会場とし、鍛造技術を使ったSign arm「とりのさしえ」を制作し、街路灯のポールに設置した。</p> <p>■長野県松本市で行われた国内最大級のクラフトフェア「まつもとクラフトフェア」でクラフト作品の発表、工芸教育と鋳金の内容を充実させたワークショップを実施し、一般参加者や地域に教育研究内容や成果を発信した。</p> <p>■台東区芸術文化財団主催による特別公開講座を台東区との連携により開催し、絹本に植物をモチーフとした制作を行い、日本画の魅力を広く伝えられるよう指導をした。</p> <p>■高大連携受託事業として、クラーク記念国際高等学校1、2年生を対象にプレスコマ実技授業を実施した。</p> <p>■東京藝術大学・全国高等学校美術工芸教育研究会の共催事業として、各都道府県高等学校芸術科（美術、工芸）担当者等に対して「藝大研修」を『日本の木工』をテーマとして実施した。</p> <p>■2017年度より「全国美術・教育リサーチプロジェクト」を開始し、幼稚園→小学校→中学校→高等学校と繋がる美術教育の流れが途切れることの無いよう、一層関係性を強化し、大学とも深く連携することで、子供たちの成長過程に即した創造力の育成を行うことを目指し、幼稚園児、小中高生、現役大学生からアーティストまでの作品を一堂に展示する展覧会やシンポジウム等を毎年度開催している。</p> <p>■文化財保存日本が研究室において、「借楽園好文亭襖絵 保存修復監理業務」「琉球王朝第十四代尚穆王御後絵 復元模写」「平成30年度県博文化遺産絵画製作業務(沖縄県)」等を実施している。</p>
			<p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>■上述の中期計画【3】に係る取組のほか、以下等を実施した。</p> <p>■早期教育プロジェクトについて、毎年度10回以上開催し、これまでに、飛騨高山、札幌、岡崎、福岡、仙台、金沢、福井、上野、北九州、東広島、和歌山、岡山、浜松、香川、奈良、京都、刈谷、熊本等の全国各地で実施している。内容についても、ミニコンサート、模擬演奏などを活発に行い、公開レッスン以外にも広く地域住民へのアプローチを広げた充実したプログラムとなっている。また同時にアウトリーチ活動（学生達による楽器指導、コンサート、ワークショップ）も平行して活発に進めており、より一層、地方の自治体や音楽機関との連携を深めている。加えて、2018年度から全日本空輸株式会社（ANA）とタイアップし、航空運賃を負担いただいており、持続可能なプロジェクトとなるよう自動努力を図っている。</p>
			<p>映像研究科</p> <p>■上述の中期計画【3】に係る取組のほか、以下等を実施した。</p> <p>■株式会社グリーンルームとの連携による「Marine and Walkにおける映像展示事業」、大日本印刷株式会社との連携による「1970年大阪万国博覧会 参加企業・関係者・関係団体の資料の現状調査と資料目録の作成」、公益財団法人ユニジャパンとの連携による「ASEAN文化交流・協力事業（アニメーション、映画分野）」を実施した。</p> <p>■渋谷の映画館「ユーロスペース」「ユーロライブ」において、映画専攻の『「息ぎれの恋人たち」顕彰記念 芳泉文化財団助成作品 一挙8作品特集上映会』を開催した。</p> <p>■鹿児島市のシティプロモーションアニメ「火山の妖精“さつまグニオン”～未来のタマゴ篇～」を制作、公開した。</p>
			<p>国際芸術創造研究科</p> <p>■東京都足立区の「音まち計画」、茨城県取手市の「取手アートプロジェクトオフィス」、東京都台東区の「谷中のおかつて」等との連携により、多彩なアートプロジェクトの企画・運営を実施している。</p> <p>■本学と駐日韓国大使館韓国文化院との共催により同ギャラリーMIで開催された「東京藝術大学韓日学生交流展 Challenge Art in Japan 環状の岸辺」展において企画運営を本研究科の学生が担当した。</p>

<p>【23】1-2 大学美術館、奏楽堂や学内ギャラリー、音楽ホール等の施設を活用することにより、本学が有する所蔵品等芸術資源の展示・公開をはじめ、教育研究成果発表としての展覧会、演奏会等を積極的に開催する。</p>	<p>■本学の大学美術館において、「藝大コレクション展」を毎年度開催している。2019年度の開催では、本学所蔵の名品の定期的なお披露目のみならず、「池大雅《富士十二景図》全点展示」「起立工商会社工芸図案」「イギリスに学んだ画家たち」「東京美術学校日本画科の風景画」などの特集を組み、大学美術館での調査研究成果を公開した。このうちで《富士十二景図》は池大雅（1723-1776）存命中から知られていた代表作で、そのうちの7幅を当館が4幅を他館が所蔵しているが、1幅は1925年に確認されて以来、行方不明になっていた。それを当館教員が発見・確認して所蔵者の好意により当館の所蔵となり、他館から借用した4幅と合わせて、約100年ぶりに全点を一堂に会することができた。</p> <p>■2018年度、本学と株式会社小学館との共同事業として、本学の学生・教職員・卒業生の作品を中心に展示・販売を行うギャラリー・ショップである「藝大アートプラザ」を本学上野キャンパス内に開設し、教育研究成果の発信の場と機能を拡充・強化した。</p> <p>■2018年度、本学内に東京藝術大学国際芸術リソースセンター（IRCA: International Resource Center of the Arts）を竣工し、施設内に新設した「ラーニングcommons」は、用途に応じて自由に組み替えられるオリジナルの家具を配置し、空間・壁面を利用したコンサート、展示、ワークショップ等のイベントにも対応できる、本学ならではのスペースである。</p> <p>■2019年度、茨城県取手の取手駅・駅ビル内に、新たなアート施設「たいけん美じゅつ場」をオープンし、施設内には「オープンアーカイブ」と呼ばれる展示空間を設け、本学の教育研究成果を恒常的に発信している。</p> <p>■附属図書館において、「蓄音機コンサート」や「Art Book Fair」を定期的に開催している。</p> <p>■本学のアーカイブセンターWebサイトにおいて、美術資料や演奏会映像等の教育研究成果を発信・配信している。</p> <p>[今後の課題] ■教育研究成果を発表する場や機会の更なる拡充。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>映像研究科</p> <p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■毎年度、学内において、各学科・専攻の教育研究成果の発表として、「新入生展」「素描展」「ドローイング展」「うるしのかたち展」「染織展」「先端Prize」「WIP展」「取手アートパス」等を学内施設において開催している。</p> <p>■2017年度より毎年度、シャネルやセリヌ等フランスを代表するラグジュアリーブランド81社と歴史的な文化施設14団体により構成される文化機関「コルベール委員会」との連携により、美術学部の学生を対象にコンペを行う本学限定のアワードを設立し、入賞した学生作品の展覧会を本学大学美術館で行うとともに、上位入賞学生はバリエーションでの招待展示を実施している。</p> <p>■学内における奏楽堂を中心とした演奏会活動、公開試験などを数多く実施し、教育研究活動の成果を発信しており、毎年度100件以上の演奏会で3～5万人の集客を得ている。</p> <p>■毎年度、横浜キャンパスの馬車道校舎において、音楽学部・音楽研究科の協力を得て教員・学生によるコンサート「馬車道コンサート」を開催している。</p> <p>■研究成果発表展および修了制作作品上映会を、毎年度開催している。</p> <p>■南カリフォルニア大学およびスクエアエニックスとの連携によりゲーム分野の教育研究を新たに開始し、その成果発信として「ゲーム学科(仮)展」および「ゲーム学科(仮)0年次展」を本学で開催した。</p> <p>■2018年度に上野キャンパスに竣工したIRCA（国際芸術リソースセンター）にて、藝祭期間に合わせて、メディア映像専攻の学生作品並びにメディアアート関係作家の作品展示を開催した。</p> <p>■毎年度、本学大学美術館陳列館を活用し、学生がアーティストの選定から出品交渉、展示コンセプト構成等全てを行う学生企画展を開催している。</p> <p>■2017年度、本研究科の学生の企画により、音楽研究科オルガン専攻及び美術研究科先端芸術表現科の修士学生とのコラボレートによるコンサート「オルガンと話してみたらー新しい風を求めてー」が学内公募で選出され、奏楽堂で開催された。</p> <p>■毎年度、最終講評会・修士論文発表会を一般公開で開催している。</p>
<p>【24】1-3 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う「文化プログラム」実行に向け、国や東京都をはじめ、政財界や産業界、地域自治体、文化施設、芸術系大学、さらには海外も含めた関係機関等とも緊密に連携・協力することにより、国際水準での戦略的文化芸術事業を先導的に展開する。</p>	<p>■2019年度、東京オリパラ大会に向けた文化プログラムとして、本学・大会組織委員会・東京都の共催により文化芸術による東京2020復興支援プロジェクト（復興モニュメント制作）を企画し、文化庁「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」の採択を受け、実施した。同プロジェクトにより、2019年8月に被災三県の中高校生と藝大生によりモニュメントのデザイン・メッセージを決定するワークショップを開催し、決定したデザインを元にモニュメントの制作した。</p> <p>■2019年度、社会の基盤として芸術が担う役割の重要性や、あらゆる分野と繋がり新しい価値を創出する芸術の力を社会に発信するため、「東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト」を開始し、文化庁「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」の採択を受けている。</p> <p>[今後の課題] ■文化芸術事業の持続的な推進。</p>		

<p>【25】2-1 キャリアアッププログラム実施はもとより、生涯学習やリカレント教育の観点から、履修証明制度を活用したプログラムや公開講座をはじめ、本学独自の多様な教育支援プログラムやコンテンツを構築・提供することにより、受講者ニーズに対応する。</p>	<p>III</p> <p>■履修証明制度を活用したプログラムや公開講座、地方自治体との連携による市民や子ども達を対象とした教育プログラム等、本学独自の多様な教育支援プログラムやコンテンツを構築・提供している。</p> <p>■2017年度より本学では、多様な感性を育む「美術」においてその「授業」の具体的な内容をリサーチすることで、授業そのものの多様性を通じ美術・芸術について教育現場の理解を深め美術界全体の活性化に繋げることを目標とし、「全国美術・教育リサーチプロジェクト」を実施している。2018年度には、幼稚園から大学までの美術教育の流れを体感する展覧会・シンポジウム「美術の授業ってなんだろう？」を開催し、2019年度には、国外の事例や作品も含めて調査を行い、美術教育のあるべき姿を考えることを通じて美術と社会の関係性を考え、これからの時代に必要な美術教育のビジョンを描くため、展覧会・シンポジウム「こんな授業を受けてみたい！」を開催した。</p> <p>■2019年度に「文化庁 文化芸術による子供育成総合事業」として「芸術系教科等担当教員等研修」を実施した。他教科に比べ、学校内における研鑽の機会が乏しい美術や音楽といった芸術系教科等担当教員を対象に、研修を通じた学びの機会を提供し、今後の芸術教育の方向性や文化と教育両分野の一体的な学習プログラムの構築を目指し、取組を進めている。</p> <p>■2019年度より、企業人や経営者がARTを学ぶ「出前講座」を開催し、芸術文化が有する力を様々な業界・組織の経営や現場に繋げている。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■企業人向けプログラムの拡充。</p> <p>■早期教育の持続的な実施。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p>	<p>■2017年度より、SOMPOホールディングス株式会社と連携し、「芸術×福祉」の視点を軸として、多様な人々が共生できる社会環境を創り出す人材育成を目的として履修証明プログラム「Diversity on the Arts Project (DOOR)」を開講している。本プログラムは、芸術やダイバーシティに関する知識を習得する講義に加えて、介護施設を活用したより実践的な実習などを展開し、社会人と芸大生が共に学修する場を設けている。本プログラム修了後は受講生がコミュニケーションの場を作るクリエイターとして、地域や医療福祉施設など多様性を持つ人々が存在する場所で活躍することが期待される。</p> <p>■毎年度、多様な公開講座や、地方自治体との連携による地域の方々や子どもたちを対象とした教育プログラムを実施している。</p> <p>■社会人向けの試行プログラムとして公益法人生産性本部経営アカデミーと「感性ポテンシャル開発プログラム」を開発している。企業経路向けのキャリアアッププログラムとしての具体化に向け、試行実施と効果分析を進めている。</p>
		<p>音楽学部・音楽研究科</p>	<p>■2017年度より、義務教育段階からより専門的に音楽を勉強することを可能にする新しい教育システムとして、中学生を対象とする早期英才教育特別コースである「東京藝大ジュニア・アカデミー」を開講している。</p> <p>■早期教育プロジェクトを、毎年度、全国各地で10回以上開催している。</p> <p>■毎年度、多様な公開講座や、地方自治体との連携による地域の方々や子どもたちを対象とした教育プログラムを実施している。</p>
		<p>映像研究科</p>	<p>■2018年度より、ノンディグリープログラムとして「メディアプロジェクトを構想する映像ドキュメンタリスト育成事業」（通称、RAM Association: Research for Arts and Media-project）を実施している。RAM Associationは、芸術の社会的な役割が問われているなかで、同時代芸術としての新たな問いを発見し、それをいかにして表現していくのか、先鋭な芸術表現とプロジェクト実践を探索する場になることを目指している。</p> <p>■横浜市からの受託事業として、公開講座「オープン・シアター」「映画編集公開講座」「コンテンポラリー・アニメーション入門」「クリスマスアニメーションワークショップ」「スクール・シアター」等を毎年度開催している。</p> <p>■取手市受託事業として「ねんどで作るアニメーション「クレイアニメ」をつくろう！」、台東区立田原幼稚園にて「台東区学びのキャンパスプランニング事業『身体を使ったアニメーション表現』」を実施した。</p>
		<p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■2016年度～2018年度に、「文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業」により、社会人等を対象に、国際的な視座を持つマネジメント人材の育成を目指す「グローバル時代のアートプロジェクトを担うマネジメント人材育成事業」を実施した。</p> <p>■2019年度より、「文化庁 大学における文化芸術推進事業」により、社会人に対する実践講座として、「2020の先にある新たな文化政策を実現するための広域連携について思考し、実践する人材育成講座 Meetingアラスミ」を実施している。</p> <p>■2019年度、本研究科の教員が社会人に向けてリレー式に講義を行う「文化芸術プロデュースへの招待」を開講した。</p> <p>■小学生とその親を対象にした公開講座「藝大ムジタンツ 親子で楽しむ 音楽とダンス！」を毎年度実施している。</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
4 その他の目標
(1) グローバル化に関する目標

中期目標	<p>1. 国際交流協定校や芸術関係団体をはじめ、世界トップクラスの芸術系大学等との連携・ネットワーク基盤の強化を図り、国際舞台で活躍し、世界の芸術文化を牽引できる人材を継続的に育成・輩出するための人材育成プログラムを整備する。</p> <p>2. 学生の国際流動性を高めるため、学生の海外留学・海外派遣および留学生の受入プログラム等を充実し、支援体制を強化する。</p> <p>3. 世界最高水準の教育研究体制・大学運営体制を構築するため、国際通用性を見据えた採用・研修・人事評価制度を段階的に整備する。</p> <p>4. 国内はもとより、海外に向けての教育研究成果の発信を推進し、国際的な芸術文化の発展・振興に寄与するとともに、芸術文化外交戦略をもって我が国の国際プレゼンスを向上させる。</p>
------	---

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
<p>【26】1-1 国際交流協定校等との共同プロジェクトについて、本学のカリキュラムへの反映を拡充し、平成33年度までに、30科目以上の国際共同授業を整備するとともに、ジョイントディグリーを含めた国際共同カリキュラム・コースワークを8コース以上整備する等、国際舞台で活躍し、世界の芸術文化を牽引できる人材を育成するための教育プログラムを開発する。</p>	III	<p>■2019年度末時点で、国際共同カリキュラム・コースワークを計6コース整備している(ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学、韓国芸術総合学校、中国伝媒大学、南カリフォルニア大学)。</p> <p>■上記コースワークの他、国際共同教育プログラムの充実として、全学的に、海外大学との共同授業および共同成果発表や、海外一線級アーティストの誘致を推進した。</p> <p>■大学全体として、機能強化の一環およびスーパーグローバル大学創成支援事業および大学の世界展開力強化事業等の活用により、海外大学との国際共同プロジェクトの拡充を進めている。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■各種国際共同教育プログラム等の教育的効果の継続的な検証と改善。</p> <p>■国際共同教育プログラムの、国際共同学位課程(ダブルディグリーまたはジョイントディグリー)への移行に係る検証。</p>	<p>美術研究科</p> <p>■2016年度、修士課程にグローバルアートプラクティス専攻を新たに設置し、カリキュラムの一環として毎年度、パリ国立高等美術学校およびロンドン芸術大学との国際共同授業「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施している。</p> <p>■2015年度～2019年度の5年間、「Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～」として「大学の世界展開力強化事業(中東)」の採択を受け、トルコのミマル・シナン美術大学およびアナドル大学、イスラエルのベツアルエル美術アカデミーとの国際共同プロジェクトを実施した。</p> <p>■美術研究科の全専攻から横断的に履修者を募り、シカゴ美術館附属美術大学との国際共同プログラムを毎年度実施している。</p> <p>■オーストリアのウィーン応用美術大学、デンマークのデザインスクール・コリング、オスロ国立芸術アカデミー、イギリスのAAスクール、ドイツのミュンスター美術アカデミー等との国際共同授業を実施している。</p> <p>■タイのシラパコーン大学およびインドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校と、3大学による共同教育・研究プラットフォーム構築について協議を進めている。</p>
		<p>音楽研究科</p> <p>■パリ国立高等音楽院やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等、海外大学・機関等から毎年度50～70名の一線級アーティストを短～長期間において招聘し、学生への実技レッスンはじめ、学生・教員等との合同演奏会や特別講義を実施する等、世界トップアーティスト育成プログラムを展開した。</p> <p>■2018年度には、本学と英国王立音楽院の学生による合同オーケストラ交流演奏会を英国と日本において開催した(英国において英国王立音楽院及びオックスフォードの2公演、日本において郡山市及び本学の2公演)の合計4公演)。また同年、本学においてシベリウス音楽院との交流演奏会、延世大学校との交流演奏会を開催した。</p>	
		<p>映像研究科</p> <p>■2016年度に「日中韓学生アニメーション共同制作 co-work」として「大学の世界展開力強化事業(キャンパスアジア)」の採択を受け、2020年度までの5年間の取組として、2010年より継続している本学と韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーション共同制作を進展させ、国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムを構築・実施している。</p> <p>■2018年度に「日米ゲームクリエイション共同プログラム-メディア革新時代の新しいアーティスト育成-」として「大学の世界展開力強化事業(アメリカ)」の採択を受け、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)と連携し、ゲーム教育に係る国際共同プログラムを充実している。</p> <p>■フランス国立映画学校(FEMIS)と、映画分野の共同ワークショップを毎年度実施している。</p>	
		<p>国際芸術創造研究科</p> <p>■ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジと芸術国際交流協定の締結に向けた協議を進めている。近年の具体的な交流として、二つのオリンピック都市をテーマとしたワークショップの開催、ゴールドスミス・カレッジで開催されたシンポジウム「ロンドン・リオ・東京オリンピック」への本学から教員・学生の参加、公開シンポジウム「ポストメディア時代の芸術文化と理論」の開催等が挙げられる。</p> <p>■コペンハーゲン大学との共同研究プロジェクト「コラボレーション・コミュニティ・コンテンツポラリティアート(CCCA)ワークショップ」を開催した。</p> <p>■「ソウル/東京/台北・アトリサーチ・ワークショップ」として、韓国総合芸術学校、国立台北藝術大学との三大学合同の共同研究会を毎年度開催している。</p> <p>■2016年度より全学で「大学の世界展開力強化事業(ASEAN)」の採択を受けて実施している「日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション」に参画し、ベトナムのホーチミン市美術大学およびベトナム国家音楽院、ラオスの国立美術学校等との共同プロジェクトを実施している。</p>	

<p>【27】1-2 海外の芸術系大学等との国際交流協定について、交流活動の内容や有効性をはじめとする連携の質を精査しつつ、平成33年度までに、協定締結数を80大学規模に拡充するとともに、大学以外における海外の芸術団体・楽団・ギャラリー等の連携機関数を110機関規模に拡充する。</p>	<p>III</p>	<p>■2016年度以降に、新たに18大学・機関との協定を締結し、本学の国際交流協定校の数は、2019年度末時点で28カ国・地域77大学・機関に達している。 ■包括的な協定は結んでいないものの多様な形で連携関係にある高等教育機関・芸術団体等は110機関となっている。 ■2017年度には、世界の各大陸を代表する芸術大学8大学の学長等を一堂に会し、21世紀における新しい芸術大学の在り方を問うシンポジウム「五大大陸 アーツサミット2018」を本学において開催するなど、本学が有するコンテンツの国際発信及び緊密なグローバル展開のためのネットワークの拡大および環境構築を推進した。</p> <p>[今後の課題] ■海外大学・機関との持続的な相互交流関係の構築。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>映像研究科</p> <p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■2016年度以降、新たに、チューリッヒ芸術大学、メルボルン大学ビクトリア・カレッジ・オブ・アート、淑明女子大学校、ミュンスター美術アカデミー、アテネ国立芸術大学、ヴァイマル古典財団、ヴェルツブルク・シュヴァインフルト応用科学大学、オスロ国立芸術アカデミー、上海大学上海美術学院、浙江師範大学美術学院、コリグデザイン大学、ミュンヘン美術アカデミー、湖北美術学院と国際交流協定を締結し、共同授業や交換留学等の取組を進めている。</p> <p>■2016年度以降、新たに、リューベック音楽大学、トリニティ・ラバン音楽院と国際交流協定を締結し、共同授業や共同演奏会等の取組を進めている。</p> <p>■2016年度以降、新たに、フランス国立映画学校（フェミス）、テヘラン芸術大学映画演劇学部、マルチメディア大学（マレーシア）と国際交流協定を締結し、共同授業や交換留学等の取組を進めている。 ■2017年度、中国伝媒大学及び韓国芸術総合学校と「国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム」の実施に関する覚書を締結し、また、2018年度には、新たに「中国伝媒大学研究生院と東京藝術大学大学院映像研究科との学生交流実施計画書」および「韓国芸術総合学校映像院と東京藝術大学大学院映像研究科との学生交流実施計画書」を締結した。</p> <p>■ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジと芸術国際交流協定の締結に向けた協議を進めている。近年の具体的な交流として、二つのオリンピック都市をテーマとしたワークショップの開催、ゴールドスミス・カレッジで開催されたシンポジウム「ロンドン・リオ・東京オリンピック」への本学から教員・学生の参加、公開シンポジウム「ポストメディア時代の芸術文化と理論」の開催等が挙げられる。</p>
<p>【28】2-1 国際交流協定校との単位互換・認定制度の拡大をはじめ、海外留学等を目的とした奨学金制度の拡充や、学生の海外留学・海外派遣を総合的に支援する組織・体制を充実させることにより、平成33年度までに、年間単位での海外留学・海外派遣学生数を400人規模に拡充する。</p>	<p>IV</p>	<p>■2018年度時点で、年間303名の学生派遣を実施した。 ■全学として海外実践研修型授業への学内助成事業「アーツ・スタディ・アプロード・プログラム(ASAP)」を毎年度実施し、参加学生を「海外派遣奨学金」により支援することで、海外における学生の教育研究活動を促進している。 ■海外留学を希望する学生に対し40万円を一括給付する「東京藝術大学海外留学支援奨学金」制度を毎年度実施している。 ■「大学の世界展開力強化事業」として4件の取組を推進し、トルコ・イスラエル、中国・韓国、ASEAN諸国、アメリカの芸術系大学・機関への学生の留学・派遣について、支援を伴う形で実施している。 ■交換留学や短期の学生派遣プログラムにおいて、日本学生支援機構(JASSO)の奨学金制度に計画を申請し、継続的に採択を受けている。 ■集中講義「Introduce Yourself as an Artist～自分と作品を世界に語ろう～」の開講、e-learningシステム（英語自習システム）の無償提供、ゲーテ・ドイツ語検定試験の団体受験学内申込制度の導入、グローバルサポートセンターにおける英文ライティングサポート等、学生の海外留学・派遣に係る支援の一環として、実践的な語学力の向上に係る取組を毎年度実施している。 ■英、仏、独、伊、西、葡、露、中、韓の各国語の外部語学試験を受験した者や日本語能試験を受験した外国人留学生で一定の成績を得た者に奨学金を給付する「語学学習奨励奨学金」を実施している。</p> <p>[今後の課題] ■学生の海外留学・海外活動に係る経済的支援を更に充実する為の、寄附金等の募集強化。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>映像研究科</p> <p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■ロンドン芸術大学等との「グローバルアート国際共同カリキュラム」の一環として、イギリス、フランス、アメリカに学生を派遣し、現地の学生と共同授業・成果発表を実施した。 ■大学の世界展開力強化事業として、トルコ・イスラエルの大学に学生を派遣した。 ■海外大学に学生を派遣し、共同授業・共同展覧会等を、韓国のソウル大学校、台湾赤粒画廊、タイのチェンマイ大学、ミャンマーのパガン漆芸技術大学、オーストラリアのメルボルン大学、フィンランドのユヴァスキュラ美術館等で開催した。 ■アナドル大学、カタルーニャ工科大学、プロツワフ美術大学、リヒテンシュタイン国立大学、ブラティスラバ芸術大学等とエラスムス+プログラムを締結し、渡航費等の助成金を活用して学生を派遣している。 ■油画専攻独自のプログラムとして、公益財団法人石橋財団の助成による石橋財団国際交流油画奨学生を実施している。海外留学や海外での創作研究活動・リサーチ等を希望する学生に対し、渡航費と現地での活動資金を支援するもので、短期型の派遣（主に学部学生）、長期型の派遣（主に大学院学生）および海外アーティストインレジデンスへの参加を目的とした枠の三枠で募集を行い、毎年10名ほどの学生が本奨学プログラムを活用して海外渡航・海外留学に臨んでいる。</p> <p>■2018年度に、本学と英国王立音楽院の学生による合同オーケストラ交流演奏会を英国と日本において開催した（英国において英国王立音楽院及びオックスフォードの2公演、日本において郡山市及び本学の2公演の合計4公演）。2019年度には学生オーケストラが、南仏・クロワ・ヴァルメールでの吹奏楽フェスティバルとパリ日本文化会館での演奏を実施した。 ■ASAP事業として、「ザルツブルク・モーツァルテウム大学との交流授業」「リューベック音楽大学との交流授業」等を開催し、学生の海外研修を実施した。</p> <p>■大学の世界展開力強化事業として、中国・韓国およびアメリカの大学に学生を派遣した。 ■ジャパン・ハウス ロサンゼルスにて、東京藝大大学院映像研究科、南カリフォルニア大学(USC)映画芸術学部アニメーション&デジタルアート学科、カリフォルニア芸術大学(CalArts)映像・ビデオ学部実験アニメーション専攻の三機関による「アニメーションのタペ～日米アニメーション上映会～」と題した学生作品上映会を開催した。 ■ASAP事業として、「GEIDAI-FEMIS WORKSHOP」等を開催し、学生の海外研修を実施した。 ■韓国芸術総合学校および中国伝媒大学とのアニメーションの国際共同制作を基盤とした共同カリキュラムや、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)との連携によるゲーム教育に係る国際共同プログラムについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。</p> <p>■ベトナムのホーチミン市美術大学およびベトナム国家音楽院、ラオスの国立美術学校等に学生を派遣し、国際共同プロジェクトとして展覧会や演奏会等を実施した。 ■ASAP事業として、「ソウル-東京-台北 アートリサーチ・ワークショップ」等を開催し、学生の海外研修を実施した。 ■韓国総合芸術学校、国立台北芸術大学との三大学合同の共同研究会や、ASEANの芸術系大学との共同プロジェクトについて、経済的支援が伴う形で学生派遣プログラムとして実施している。</p>

<p>【29】2-2 国際交流協定校との交換留学制度等の留学生受入プログラムの拡大をはじめ、修学や生活支援を担うチューター機能強化や日本語教育の充実、レジデンス機能強化、留学生を支援する組織・体制等を充実させることにより、平成33年度までに、年間単位での受入留学生数を500名規模に拡充する。</p>	<p>IV</p> <p>■2018年度時点で、年間383名の外国人留学生を受け入れた。 ■外国人留学生志願者数が年々増加している。 ■2016年4月に設置した美術研究科にグローバルアートプラクティス専攻および国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻では、学生定員の一部を外国人留学生入試により募集している。 ■国際交流協定校の拡充等により、交換留学生の受入を促進している。 ■大学全体として、機能強化の一環およびスーパーグローバル大学創成支援事業および大学の世界展開力強化事業等の活用により、海外大学との国際共同プロジェクトの拡充を進めて、本学に在籍する留学生以外でも、多数の外国人留学生を受け入れ、グローバルな教育研究環境を構築している。 ■外国人留学生等に係る支援業務を一括して行う「グローバルサポートセンター」および「国際企画課」によるサポート体制のほか、留学生の学習及び生活上の相談等に日常的・組織的に対応するため、入学からの経過期間が1年未満の外国人留学生すべてに対してチューター制度を適用しており、修学・生活支援を実施した。</p> <p>[今後の課題] ■外国人留学生の受け入れに係る質的充実。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p>	<p>■2016年度、修士課程にグローバルアートプラクティス専攻を新たに設置し、1学年18名のうち6名を外国人留学生入試により募集している。 ■毎年度、国際交流協定校より約40名の交換留学生を受け入れている。 ■2015年度～2019年度の5年間、「Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～」として「大学の世界展開力強化事業(中東)」の採択を受け、トルコのミマル・シナン美術大学およびアナドル大学、イスラエルのベツアルエル美術アカデミーとの国際共同プロジェクトを実施し、先方の学生を積極的に受け入れた。 ■海外大学との国際共同カリキュラムや国際共同授業により、本学に在籍する留学生以外でも、多数の外国人留学生を受け入れ、グローバルな教育研究環境を構築している。 ■共通工房等において、多国籍な学生に対しての安全管理・指導のため、機械のマニュアルの英文化や、使用手引きの修正等を継続的に実施している。</p>
<p>【30】3-1 世界一線級アーティストを含む外国人教員をはじめ、海外大学での教育研究活動歴を有する教員や海外での学位取得教員等について、平成33年度までに200人規模に拡充するとともに、教育研究に係る大学の意思決定に係る外国人教員の参画についての制度設計・運用体制整備を進める。</p>	<p>III</p> <p>■大学全体として、海外一流大学等から卓越した芸術家・指導者を継続的に招聘・配置することにより、指導体制の強化・充実を図っている。 ■外国籍教員、海外大学での教育研究活動歴を有する教員、海外での学位取得教員等について、2018年5月1日時点で118名(2017年5月1日時点104名)とするとともに、短期及び中長期間において、ロンドン芸術大学やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等から世界一線級アーティスト等を、卓越教員としての雇用計25名(内クロスアポイントメント協定に基づく雇用11名)および特別招聘教授18名を含め161名招聘し、国際連携授業やワークショップ、特別講義等の教育プログラムを実施した。 ■外国人招聘教員用宿舎を本学上野キャンパス内に建設し、海外一線級芸術家等の教育研究のより円滑な遂行への支援を行うこととし、2018年3月に竣工した。 ■2016年度および2017年度に、海外から教員・アーティスト等の多様な専門家を招聘する事業「インターナショナルスペシャリスト・インビテーションプログラム」(ISIP)を学内公募により全学的に実施した。 ■2016年度より、頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム(2018年度からは国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)として「マルチメディア・コンテンツに関する領域融合・実践型国際研究ネットワーク形成」を実施し、ハーバード大学、スタンフォード大学、ニューヨーク大学、ソルボンヌ大学に音楽分野および映像分野の若手研究者を派遣し、相手先大学から世界的な研究者を招聘した。 ■「大学の世界展開力強化事業」として4件の取組を推進し、トルコ・イスラエル、中国・韓国、ASEAN諸国(特にCLMV+タイ)、アメリカの芸術系大学・機関とのネットワークを強化し、若手教員の相互交流を推進した。</p> <p>[今後の課題] ■多様な芸術家・指導者および実務家等の継続的な招聘・配置。 ■若手教員等の海外大学との相互交流の推進。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p> <p>音楽学部・音楽研究科</p> <p>映像研究科</p> <p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■少人数制による基礎から応用までの授業や作品制作等に係る個別指導を充実するとともに、工房の稼働環境を整備し、学生それぞれの技量に合わせて個別に指導を行う事で、安全管理を徹底している。 ■毎年度、中国の広州美術学院、イギリスのAAスクールおよびロンドン芸術大学、ドイツのプレーメン芸術大学、ポーランドのプロツワフ芸術大学、フランスのパリ国立高等美術学校等から卓越した芸術家・指導者・研究者を30名規模で招聘し、少人数教育・個人指導および幅広い芸術表現の学習を可能にしている。</p> <p>■毎年度、パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、リスト音楽院、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団など世界的な音楽大学及びオーケストラから一流の教授、演奏家を招聘し、個人指導、グループレッスン、特別講座、演奏会による協演等を実施して指導体制の強化・充実を努めている。 ■ハーバード大学、パリ第4大学、スタンフォード大学、ニューヨーク大学、ボルドー芸術大学等から音楽理論・作曲・マルチメディア分野の研究者を招聘し、講演会や研究指導等を実施している。</p> <p>■フランス国立映画学校(FEMIS)、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)の教員を卓越教授として雇用し、「映画学」「国際映像メディア論」「国際映画芸術表現研究」等を開講するとともに、檀国大学(韓国)、テヘラン芸術大学(イラン)、ラサール芸術大学(シンガポール)から招聘した教員による「撮影」「録音」「編集」領域の講義を実施している。</p> <p>■一学年あたりの学生定員が修士課程10名・博士後期課程5名であるのに対し、教授・准教授・講師6名および助教3名で計9名の専任教員を配置し、少人数教育・個人指導を徹底している。 ■パリ政治学院副学長のブルーノ・ラトゥール、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ教授のマシュー・フラーおよびマイク・フェザーストーン、元パリ国立高等学校学長でキュレーターのニコラ・ブリオー、台北芸術大学・学長の陳愷瑋、ハーバード大学の依田富子教授およびアレクサンダー・ザルテン准教授等、卓越した業績を有する教員・実務家等を毎年度多数招聘し、特別講義や研究会を開催している。</p>

<p>【31】3-2 教育研究体制を支援する事務組織のグローバル化を推進するため、外国人職員をはじめ、海外での職歴を有する職員や海外大学での学位取得職員等数について、平成33年度までに20名規模に拡充するとともに、TOEICスコア700相当以上の外国語運用能力を有する職員数を80%規模まで拡充する。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■TOEICスコア700相当以上の外国語運用能力を有する職員数は、2019年度末時点で、60%に達している。 ■毎年度継続的に様々なプログラムを事務職員に提供し、具体的には、eラーニングシステムによる英語学習、外国人留学生と職員の交流授業、2週間～1カ月間の英国等における海外語学研修、ビジネス英文書研修等を実施している。 ■外国人留学生と職員との交流授業は、特徴的な取組であり、2017年度から継続している。本学に在籍する外国人留学生をチューターとして、週1回・45分(年間で計20回程度)、研修受講者と留学生で少人数のグループを組み、様々なトピックに沿って英語でディスカッションを行う演習である。意見を出し合い討論することで、スピーキング・リスニング・ポキャブラリーの各能力を総合的に向上させると同時に、留学生との交流を通して異文化への理解を深めることに繋がっている。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■語学研修の継続的な実施と、実務での活用への接続。 	
<p>【32】4-1 国際共同カリキュラムの実施レポート、シラバス等の教育情報、世界的に評価の高い文化財保存・修復等の研究成果に関する情報、さらには教員や学生をはじめ、卒業生も含めた本学関係者の国際的な活動状況や受賞・入賞実績等の成果を積極的に公開するとともに、多言語による情報発信を段階的に進める。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ロンドン芸術大学やパリ国立高等美術学校とのグローバルアート国際共同カリキュラム、韓国芸術総合学校・中国伝媒大学とのアニメーション国際共同制作、南カリフォルニア大学とのゲーム制作に係る国際共同プログラム等について、実施レポートや関連コンテンツについて、それぞれWebサイト等により日英両言語で発信している。 ■シラバスについては日英で記載しているほか、検索・内容画面について自動翻訳システム(Google Translate)を導入しており、多言語により参照することができる。 ■文化財保存/修復などの研究成果について、研究室のWebサイトおよび、本学の「シーズ集」により発信している。 ■教員・学生・卒業生等の活動状況や受賞・入賞実績等について、本学のWebサイトで随時公開している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■教育活動に係るレポート等の充実。 ■シーズ集の充実等による研究成果の発信。 	

<p>【33】4-2 海外における教員・学生の制作・展示・公演等の活動について、平成33年度までに、年間単位での実施数を70件程度とすることを目標とし、国際舞台における教育研究成果の公開を推進する。また、海外連携大学・機関等との連携による、海外の芸術文化資源を活かした共同プロジェクトや新興国等に対する芸術教育研究に係る総合的な支援等、国際的な芸術文化外交に資する取組を推進する。</p>	<p>IV</p> <p>■国際共同カリキュラムや社会実践プログラムの一環として、地域を含む国内および海外において多数の展覧会・演奏会・上映会等を開催し、教育研究活動の成果を積極的に発信した。</p> <p>■全学として海外実践研修型授業への学内助成事業「アーツ・スタディ・アプロード・プログラム(ASAP)」を毎年度実施し、参加学生を「海外派遣奨学金」により支援することで、海外における学生の教育研究成果の発表を促進している。</p> <p>■「大学の世界展開力強化事業」として4件の取組を推進し、トルコ・イスラエル、中国・韓国、ASEAN諸国、アメリカの芸術系大学・機関への学生の留学・派遣を促進し、現地での制作・展示・公演等の活動を積極的に実施している。</p> <p>■2018年度、本学と南カリフォルニア大学(USC)およびジャパン・ハウスロサンゼルスの主催により、米国・ロサンゼルスArataniTheatreにおいて、「音楽とアニメーションの調べ in LA」を開催した。この取組は、本学がアニメーション化したヴィジュアルディによる名曲「四季」の音楽世界の映像と、本学及びUSC 両音楽学部の精鋭学生と本学澤和樹学長による生演奏とをAI(人工知能)技術により同期させて上映・演奏するライブ・アニメーション・コンサートである。実施の度に速度等が微妙に変化する生演奏に合わせ、本学COI拠点とヤマハが共同開発したAI技術によりアニメーションを同期上映するのは世界初であり、会場収容人数880人に対して1600人以上の申し込みがあり、キャンセル待ちが出るほどの盛況となったほか、コンサートの様子は、NHKの全国ニュース及びNHK Worldで放送され、JRのトレインニュースでも繰り返し放映された。</p> <p>■本学COI拠点を中心として、NICAS(オランダ芸術科学保存協会)との協定に基づく共同研究、人材交流等を実施し、東京都美術館で開催されたブリューゲル作「バベルの塔」展との関連企画「Study of BABEL」展では、3mを超える立体化したバベルの塔やクローン文化財を制作し、東京都美術館及び本学Arts & Science LAB.で展示したほか、2018年2月には本国オランダ・ボイマンス美術館での「BABEL/Old Masters Back From JAPAN」展においても「バベルの塔」拡大複製画、3D解説映像、動く絵画作品の3点を展出し、多数の現地メディアから取材を受ける等好評を得た。</p> <p>[今後の課題]</p> <p>■海外における芸術活動の促進に係る機会と支援の充実。</p> <p>■海外大学・機関との持続的な交流関係の構築。</p>	<p>美術学部・美術研究科</p>	<p>■シュトゥットガルト美術アカデミーおよびソウル大学との共同による、ソウル大学での交流展覧会の開催、オーストラリア国立大学(Canberra)で開催された第13回ANZACA(オーストラリアNZ合同臨床解剖学会)への参加、Korea Craft & Design Foundation主催のInternational Craft Forum 2019「Why Craft Now!」での招待講演、カナダ・バンクーバーで開催されTED2019への登壇等、海外における教員・学生の活動を積極的に実施している。</p> <p>■2018年度、カンボジア・シムリアアップで開催された「Asian Lacquer Craft Exchange Program」の展覧会に教員・学生が出品し、日本の漆芸の研究成果をアジア各国の来場者に広く発表すると同時に、漆芸文化を通じて、アジア各国の大学やアーティストとの交流を促進した。</p> <p>■多様な人との出会い方、つながり方に創造性を携え働きかけていくアートプロジェクトである「TURNプロジェクト」の一環として、ホーランドのヴロツワフ美術大学と共同で現地の高齢者団体とのワークショップを実施し、3週間に渡り制作と交流を行い、その成果としてヴロツワフ美術大学内にて展覧会を開催した。</p>
<p>音楽学部・音楽研究科</p>	<p>■韓国の延世大学音楽学部との交流事業、管打楽専攻を中心としたアメリカシカゴでのミッドウェストクリニックコンサートへの参加、モスクワ音楽院でのワークショップ、英国湖水地方音楽祭・講習会への参加、シンガポールで行われた第3回PAMS(アジア太平洋音楽大学連盟)への参加、オランダのホルンフェスティバルへの参加等、教員・学生の海外における公演や交流授業を積極的に実施した。</p> <p>■2019年度には、東京藝大ウィンドオーケストラが南仏ラ・クロワ・ヴァルメールでの吹奏楽フェスティバルおよびパリ日本文化会館での演奏を実施し、技術面・演奏表現面において現地で高い評価を得た。</p> <p>■タイやミャンマーの芸術系大学と、現地の音楽文化をテーマにした交流プロジェクトを実施している。</p>		
<p>映像研究科</p>	<p>■ジャパン・ハウス ロサンゼルスにて、東京藝大大学院映像研究科、南カリフォルニア大学(USC)映画芸術学部アニメーション&デジタルアート学科、カリフォルニア芸術大学(CalArts)映像・ビデオ学部実験アニメーション専攻の三機関による「アニメーションのタベ〜日米アニメーション上映会〜」と題した学生作品上映会を開催した。</p> <p>■文化庁ASEAN文化交流・協力事業(映画・アニメーション分野)として実施された「デジタルシネマ撮影照明・編集ワークショップinマレーシア」「アニメーションブートキャンプASEAN」において、研究科の教員が専門家として参画したほか、タイおよびミャンマーへの学生派遣を実施し、現地でワークショップや上映会を開催した。</p>		
<p>国際芸術創造研究科</p>	<p>■ASAP事業として、「ソウル-東京-台北 アートリサーチ・ワークショップ」等を開催し、学生および教員の海外における共同研究会や交流活動を促進した。</p> <p>■ベトナムのホーチミン市美術大学およびベトナム国家音楽院、ラオスの国立美術学校等に学生を派遣し、国際共同プロジェクトとして展覧会や演奏会等を実施した。</p> <p>■2017年度の「第7回モスクワ・ビュエンナーレ2017」および、2018年度にロスチャイルド館(パリ)で開催された展覧会「深みへー 日本の美意識を求めてー」展において、本研究科の教員がキュレーターを務め、また、学生1名がキュレーター・アシスタントに選出された。</p> <p>■2018年度に復星アートセンター(上海)で開催された「Saudade - Unmemorable Place of Time」展において、学生1名がキュレーター・アシスタントに選出された。</p> <p>■2019年度にアイルランド国立近代美術館で開催された展覧会「欲望：20世紀の初めからデジタル時代のいたるまでのアートと欲望のあり方の変遷」において、1名の学生が映像作品を展出し、1名の学生がキュレーションを務めた。</p>		

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
4 その他の目標
(2) 附属学校に関する目標

中期目標	<p>1. 国際的に優れた演奏家や作曲家を育成するため、専門教育を中心としたカリキュラム等を、高大連携を軸に体系的に整備する。</p> <p>2. 音楽学部との連携を強化し、学外からの意見を積極的に学校運営に反映させるとともに、全国の音楽高校の拠点校としての役割を実践する。</p>
------	---

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
【34】1-1 国際的に活躍する演奏家・作曲家を目指すため、高等学校として必要な一般教科とのバランスを考慮しつつ、専門性に特化したカリキュラムを体系的に整備する。	III	<p>■2016年度よりスーパーグローバルハイスクール (SGH) の指定を受け、イギリスおよびハンガリーへの演奏研修旅行を毎年度実施し、イギリスにおいては、英国ロイヤルアカデミーでのマスタークラス（ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ハーブ、フルート、トロンボーン）を受講し、演奏会（邦楽合奏、ピアノ連弾、トロンボーン、弦楽合奏）を開催した。また、パーセルスクールでは、生徒間の交流会、ピアノ即興授業受講、ハープレッスン、オーケストラ合同練習、邦楽合奏公開交流を行い、合同演奏会を実施した。研修旅行では、演奏解説、演奏内容、邦楽楽器紹介、交流会進行等についてすべて英語で実施できるように準備を行い、実施した。</p> <p>■大学の言語・音声トレーニングセンターと連携し、大学の英語の授業に高校生が参加できる環境を整え、また、2018年度からは、ドイツ語、フランス語の授業でも高大連携を開始した。</p> <p>[今後の課題] ■カリキュラムの継続的な見直し。</p>	
【35】1-2 附属高校における演奏活動の充実と向上を図るため、音楽学部との連携授業（オーケストラ、室内楽、ソルフェージュ等）を積極的に実施し、有機的で密接な高大連携を表現する。	III	<p>■附属高校のすべての専攻において、オーケストラ、合唱、邦楽合奏、ソルフェージュ、専攻実技等の実技系教育はもちろんのこと、学校行事や日常の教育活動全般、生徒の生活面に関しても常に大学各学会と連携して実施できている。</p> <p>■2019年度には、大学と連携したオーケストラの授業に、上海音楽学院附属校の生徒が参加するなど、高大連携の成果を海外の学校にも経験してもらうことができた。</p> <p>■附属高校運営委員会においても、大学各学会と情報交換も緊密に実施し、高大合同で生徒の情報共有や問題への対応を図るなど、大学との情報共有を実施している。</p> <p>[今後の課題] ■高大連携の更なる充実。</p>	
【36】1-3 音楽学部の機能強化と一体となった高度な専門教育を行うため、音楽学部教員はもとより、海外からの一線級ユニット誘致教員との連携の下に、より効果的な授業方法の開発と研究を行う。	III	<p>■音楽学部教員による専門教育に加えて、大学がパリ国立高等美術学校等から誘致した一線級アーティストを附属高校にも招き、公開レッスン、トークコンサート、室内楽の指導、オーケストラの指導等を実施した。レッスンは全校生徒に聴講させ、世界水準の高度な音楽を学ぶ機会とした。</p> <p>[今後の課題] ■高大連携の更なる充実。</p>	

<p>【37】1-4 高大連携を軸にした専門教育の研究成果を、国内はもとより海外の関係機関との交流事業においても効果的に活用するとともに、研究紀要や研究会においても積極的に発信する。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高大連携を軸とした音楽教育の成果を、附属高校のWebサイト、学校説明会、国内外への演奏旅行、公開実技試験、定期演奏会、ピアノ初見アンサンブル演奏会、研究紀要、スーパーグローバルハイスクール事業の報告書等を通して、内外に積極的に発信した。 ■SGH全国高校生フォーラム、SGH中間報告会、SGH甲子園等において、生徒による発表、プレゼンを含む情報発信を積極的に実施した。 ■地域連携として、北区文化振興財団と連携した北区主催「輝く☆未来の星コンサート」を開催し、成果を発信した。 ■2019年度には、ハンガリーのリスト音楽院での演奏会等を実施した。演奏会は、日本～ハンガリー友好150周年の記念行事の一つとして、日本・ハンガリー両国の外務省/大使館より認定され、演奏は現地観客から高く評価された。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国内外における成果の発信。 	
<p>【38】2-1 音楽学部の機能強化と一体となった学校運営を確立するとともに、学校評議会等の学外からの意見を積極的に活用する。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■附属高校の運営委員会には校長のほか、大学の音楽学部長や学部各科主任が加わり、学校運営に参画している。 ■学外の学校評議員による学校評議員会を年2回開催し、学校運営やSGHの活動に関する客観的な指摘や意見をいただき、積極的に活用しているほか、学外者に依託している監事監査では、附属高校の監査も年1回実施し、学校運営に関する客観的な意見を積極的に活用している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学内外からの第三者的評価の充実。 	
<p>【39】2-2 全国芸術高等学校長会や全国音楽高等学校協議会を通し、全国の芸術高校や音楽高校の拠点校として、現代社会に適合した早期芸術教育の提案及びその実践を牽引する。</p>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> ■2015年度より、附属高校は全国音楽高等学校協議会の理事長校となっており、校長が理事長に就任している。理事長校として年3回の理事会を主催するとともに、全国の音楽高校や音楽コースを持つ学校の拠点校として、予算や事務を管理し、全国大会の開催を支えている。 ■2019年度には、「未来を創る音楽家を育てるために」をテーマとして、本校にて全国音楽高等学校協議会全国大会を実施し、生徒たちの演奏や公開授業内での発表は大会参加者より高い評価を受け、分科会等での活発な意見交換へと繋がった。 ■附属高校のWebサイトにおいても、SGHに係る特設ページを日英両言語で掲載しており、全国の音楽高校や音楽コースを持つ学校の拠点校として、早期音楽教育モデルを提示・発信している。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全国の芸術高校や音楽高校の拠点校としての取組の促進。 	

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

4 その他の目標

(3) 男女共同参画推進に関する目標

中期目標	イノベーション創出やグローバル展開等大学改革・機能強化と有機的に連動したダイバーシティな教育研究活動、大学運営を推進する観点から、男女共同参画に関する推進体制・環境整備や各種支援システム等を充実させる。
------	---

中期計画	進捗状況	判断理由(大学全体での計画の実施状況等)	各学部・研究科における取組状況
【40】1-1 学長の下に、男女共同参画推進をはじめとするダイバーシティな教育研究活動、大学運営を推進するための組織を新設し、迅速な意思決定による人員配置や支援メニューの実行等、機動性・即応性を活かした女性教職員支援を行う。また今後一層の飛躍が期待される女性教員(研究員相当含む)の任用割合を、平成32年度までに、概ね45%まで増加させる。	III	<p>■2018年度時点で、女性教員の在職比率は42.7%である。</p> <p>■2016年度、男女共同参画実施や女性研究者支援等、本学におけるダイバーシティ環境整備推進に係る全学的な戦略を企画・立案することを目的として、新たに「ダイバーシティ推進室」を設置した。コーディネーター等専門スタッフを雇用し、女性研究者に対する支援・相談体制を整備するとともに、研究活動サポートを担う「教育研究支援員制度」を構築し、運用を開始した他、各キャンパスにおける交流スペースとして「ダイバーシティラウンジ」を整備した。</p> <p>■ダイバーシティ環境整備事業全体を「Hopping Women Project」として位置付け、専用WEBサイトの開設や各種セミナー、シンポジウムを開催した他、研究活動支援等のキャリア支援プログラム「ダイバーシティパイロットプログラム」を実施する等、多様な研究環境実現に向けた取組を推進した。</p> <p>■また、多様な人材の確保を促進すべく、女性や外国籍を有する者、40歳未満の若手を講師以上の専任教員として採用決定した部局を対象とするインセンティブ制度を導入した。</p> <p>[今後の課題] ■ダイバーシティな教育研究体制・環境の構築に向けた更なる施策の推進。</p>	各学部・研究科における取組状況
【41】1-2 男女の機会均等を実現し、ダイバーシティな大学の管理・運営の実現に向けての施策・方針決定へ参画を拡充するため、女性上位職の割合を、平成32年度までに、概ね25%まで増加させる。	III	<p>■2018年度時点で、上位職に占める女性の割合は21.3%である。</p> <p>■2017年度には、よりグローバルな観点から芸術分野におけるダイバーシティの現状課題等を認識すべく、イギリスから研究者を招聘し「東京藝大ダイバーシティシンポジウム」を開催したほか、自身をブランディングする方法、キャリアプラン設計の仕方、グローバルな活動に欠かせない英語のプレゼンテーション技術など、アーティストや研究者としてこれからの社会で活躍するために必要な知識とスキルの習得を目指すものとして、外部講師等による「若手研究者向けスキルアップ研修」を計3回開催した。</p> <p>■2018年度には、女性の活躍に対する意識啓発を図るため「芸術系大学女性教育・研究者シンポジウム」を開催した。国谷裕子理事による基調講演「今、女性の活躍に向けて伝えたいこと」のほか、本学及び在京の芸術系大学の女性教員(武蔵野美術大学教授、女子美術大学教授、東京音楽大学教授、桐朋学園大学教授)が登場し、芸術分野における女性のキャリア構築をテーマに、各大学・専門分野での教育と実践の現場に係る事例や自身の経験を踏まえたパネルディスカッションを行った。当日はお子様連れの方も来場できるよう臨時託児室を設け、186名の参加者があった。また、多様な研究環境の実現や女性芸術家・研究者のキャリア支援に向けた取組として、セミナーや研修を多数開催した。</p> <p>[今後の課題] ■ダイバーシティな教育研究体制・環境の構築に向けた更なる施策の推進。</p>	各学部・研究科における取組状況